

溪仁会グループ

CSRレポート2020

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT 2020

「ずっと。」
人と社会を支える



IK 溪仁会グループ

医療
法人 溪仁会

社会福祉
法人 溪仁会

株式
会社 ソーシャル

医療
法人 稲生会

溪仁会グループ CSRレポート 2020

CORPORATE
SOCIAL RESPONSIBILITY
REPORT 2020



編集方針

溪仁会グループは、2006年から「CSRレポート」(CSR=Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)を発行し、当グループの取り組みや考え方をお伝えしています。

2019年度は、中期経営計画「ビジョン溪仁会2020」に基づき、グループ各施設・法人が設定した「あるべきすがた」の実現に向けた取り組みを、施設・法人ごとに編集しています。また、巻頭では医療物資等寄贈への御礼と、溪仁会グループが力を入れていく在宅療養・介護支援への取り組みを特集いたしました。

第三者意見は、小樽商科大学学長の穴沢 眞氏をお願いいたしました。ご協力いただいた皆さんの声は、当グループの今後の事業の在り方や活動内容の検証に役立て、CSR活動の新たな展望につなげたいと考えています。

報告の範囲

当グループの2019年度(2019年4月～2020年3月)の活動やデータを中心に、2018年度以前や2020年度以降の活動情報も記載しています。

バックナンバーについて

「CSRレポート」のバックナンバーは、当グループのWebサイト上で公開しております。
URL <http://www.keijinkai.com>

次回発行について

次回CSRレポートは、2021年11月を予定しています。

●発行

医療法人溪仁会 法人本部 2020年11月

●お問い合わせ先

医療法人溪仁会 法人本部
経営企画部 広報課

〒006-0811

札幌市手稲区前田1条12丁目2番30号

溪仁会ビル3F

TEL 011-699-7500 FAX 011-699-7501

E-mail editor0110@keijinkai.or.jp

C O N T E N T S

溪仁会グループの社会的使命…………… P04

溪仁会グループの事業理念…………… P05

巻頭企画 1

医療物資等ご支援への御礼

…………… P06

巻頭企画 2

溪仁会グループが描く

「あるべきすがた」…………… P08

溪仁会グループのCSR活動

Actions2019…………… P12

手稲溪仁会医療センター…………… P14

COLUMN① 第69回日本病院学会開催報告…………… P19

札幌西円山病院…………… P20

定山溪病院…………… P22

札幌溪仁会リハビリテーション病院…………… P24

溪仁会円山クリニック…………… P26

**COLUMN② 職員と共にずっと。溪仁会健康保険組合
10年間のあゆみ…………… P28**

COLUMN③ 環境活動トピックス…………… P29

社会福祉法人溪仁会…………… P30

株式会社ソーシャル／医療法人稲生会…………… P35

数字で読み解く溪仁会グループ…………… P36

TOP MESSAGE

溪仁会グループとしてのブランド力を強化し 唯一無二の価値の創出をめざす

溪仁会グループ最高責任者 医療法人溪仁会 理事長 田中 繁道…………… P44

第三者意見…………… P46

ISO26000対比表…………… P47

溪仁会グループマップ…………… P48

溪仁会グループ一覧…………… P50



【シンボルマークについて】

溪仁会の頭文字であるKをモチーフに、当グループの理念を表現しています。

その形状は人と人の支え合いに基づいた「安心感と満足の提供」、

勢いよく真っ直ぐに立ち上がるさまは「変革の精神」を表しています。

ブルーのカラーリングは、「プロフェッショナル・マインド」および「信頼の確立」を

ひたむきに追求する、誠実さをイメージしています。

溪仁会グループの社会的使命



「ずーっと。」

人と社会を支える

溪仁会グループ

私たち溪仁会グループは、

社会的責任(CSR)経営を推進します。

高い志と卓越した保健・医療・介護・福祉サービスにより、

「一人ひとりの生涯にわたる安心」と

「地域社会の継続的な安心」を支えます。

溪仁会グループの事業理念

安心感と満足の提供

Offering a Sense of Security and Satisfaction

プロフェッショナル・マインドの追求

Attaining a Professional Mind

信頼の確立

Building the Foundations of Trust

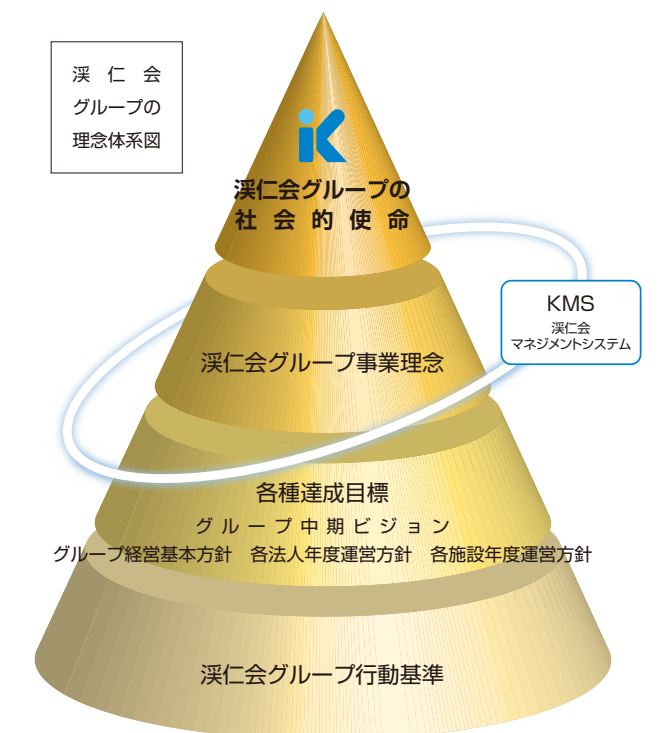
変革の精神

Developing the Spirit of Change

グループ経営の理念とその体系

私たち溪仁会グループは、「ずーっと。」を合言葉にCSR経営を推進してきました。この「ずーっと。」を具体的な理念として規定し、社会的責任をグループ全体で約束し、実現していくために、2014年10月1日に「溪仁会グループの社会的使命」を制定しました。保健・医療・介護・福祉のサービスの質(公益性)を「人」、経営の質(継続性)を「社会」という言葉で表現しています。

「溪仁会グループの社会的使命」は、事業理念や各種達成目標の上位概念として、経営の根幹を成すものです。また、溪仁会マネジメントシステム(KMS)を、私たちの活動全体を支え、CSR経営を確かなものにする取り組みとして位置づけています。





巻頭企画1

みなさまに支えられて。
たくさんのご支援に
感謝申し上げます。

医療物資等ご支援への御礼

新型コロナウイルス感染症の拡大が続く中、
溪仁会グループの各病院・施設では感染拡大防止対策に取り組んできました。

医療物資不足の報道もされた中、企業や団体、個人の方々から、
溪仁会グループの病院・施設で感染防止の対応にあたる職員へ、
マスクや防護服、食料品の差し入れなど、多数のご寄贈をいただきました。

また、医療従事者への応援のメッセージを届けてくださった方もいらっしゃいます。

地域の方々に支えられて、私たちの活動は成り立っています。

温かいお心遣いの数々に、あらためて御礼を申し上げます。

ご寄贈いただいたみなさま(五十音順・企業団体名の敬称略)

アルファグループ株式会社	当別ロータリークラブ
池田煖房工業株式会社	中村クリニック
NPO法人オペレーション・ブレッシング・ジャパン	西区在宅ケア連絡会
NPO法人ジャパンハート	ニック株式会社
NPO法人幡ヶ谷再生大学復興再生部	日本介護美容セラピスト協会
NPO法人ハンズハーベスト北海道	日本茶インストラクター協会北海道支部
NPO法人幹の会	服部醸造株式会社
渡島医師会	ビジョン タヒラ株式会社
花王プロフェッショナルサービス株式会社	美唄市医師会
鹿島建設株式会社北海道支店	風月株式会社
KAZEN WLD株式会社北海道支店	フジコンコーポレーション株式会社
株式会社コンホートケア	ホクレン農業協同組合連合会
株式会社サンクレエ	北海学園札幌高等学校3年C組一同
株式会社シティリンクス	北海道味の素株式会社
株式会社ジャワティ・ジャパン	北海道看護協会
株式会社どんぐり	北海道キリンビバレッジサービス株式会社
株式会社ネオキャリア	北海道コンサドーレ札幌選手会
株式会社ビックカメラ	北海道社交飲食生活衛生同業組合 岩内支部
株式会社ビレイ	北海道新聞増井販売所
株式会社ファーストリテイリング／株式会社ユニクロ	北海道マテック株式会社
株式会社文明堂東京	北海道薬剤師会
株式会社北海道日本ハムファイターズ	ホテルモントレエーデルhof札幌
株式会社松井老舗	ホビスロン大滝・クラフトハウス株式会社
株式会社マテック	三井住友海上火災保険株式会社北海道本部
株式会社明治 北日本支社	森永製菓株式会社北海道統括支店
株式会社ヤクルト	八雲商工会女性部
株式会社吉山商店・麺屋彩未・奥芝商店	有限会社エム・エフ工業
協同組合アンジョウハーツ	有楽製菓株式会社
嬉楽株式会社 (Organic Kitchen Chikyu)	雪印ビーンスターク株式会社
金滴酒造株式会社	横浜油脂工業株式会社
グレースコミュニティ主任牧師 益田結さん	よつ葉乳業株式会社
cake&cafe collet	Life & Ceremony株式会社
気仙沼・南三陸介護サービス法人連絡協議会	レッドブル・ジャパン株式会社
公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団	レバレッジズメディカルケア株式会社
札幌市医師会	稲澤愛果さん
札幌市歯科医師会	尾形沙恵子さん
札幌市立前田中学校陸上部	小野木奈津江さん
札幌ホテル旅館協同組合	菊池竹子さん
札幌薬剤師会西支部	北川正人さん
札幌ヤクルト販売株式会社	杉浦直美さん
サツラク農業協同組合	大堂久仁子さん
霜止出苗	中山純一さん
ジャニーズグループ Smile Up! Project	三浦星菜さん
ジャルダン ボタジエ テラニシ	呂立さん、楊玲玲さん、楊千慧さん
シャレーアイビー定山溪	山内弥生さん
新函館農業協同組合	若松三智子さん
第一生命保険株式会社札幌総合支社	患者さんご家族
タリーズコーヒー・ジャパン株式会社	ご入居者さんご家族
ていね耳鼻咽喉科クリニック	ご利用者さんご家族
東京ヤクルトスワローズ2軍監督 池山隆寛さん	職員ご家族

誰もが住み慣れた場所で

その人らしい生活を続けていくために

溪仁会グループが描く 「あるべきすがた」

病気にかかったり、高齢になったりしても、
 できる限り住み慣れた地域で自分らしい生活を続けたい―。
 そう願う方の思いに応えるため、溪仁会グループでは近年、
 ご自宅で暮らす高齢の方や患者さんをサポートする取り組みに力を入れています。
 これは、医療や介護、予防、生活支援などのサービスを一体的に提供する
 地域包括ケアシステムの構築をめざす当グループにとって、大切な使命でもあります。
 2019年に新たにスタートした在宅支援の
 取り組みについてご紹介します。



小規模多機能型居宅介護

「通い（通所介護・デイサービス）」を中心に、必要に応じて
 「訪問（訪問介護）」「泊まり（ショートステイ）」を組み合わせ
 利用できる介護保険サービスの提供。利用者さんは地域や社
 会とつながりを保ちながら、さまざまな生活支援を受けること
 ができ、また、介護を担うご家族の休息にも役立つことから、
 在宅生活を支える拠点としてニーズが高まっています。

訪問看護

看護師やリハビリスタッフが在宅療養中の患者さんの生活の
 場を訪問し、医療的ケアを提供するサービスの提供。高度な医
 療ケアを必要とする方が在宅療養するケースが増え、高度急
 性期から在宅に戻る場合のフォローが求められています。ま
 た、小児高度急性期医療の経験が必要となる、小児在宅患
 者さんへの対応ニーズも増えてきています。

CASE 1

菊水こまちの郷と連携し、柔軟なサービスを提供

サテライト型小規模多機能ホームるびなす

菊水こまちの郷と連携した質の高いケア

「サテライト型小規模多機能ホームるびなす」は、「小規模多機
 能型居宅介護菊水こまちの郷」のサテライト施設として、2019年4
 月に札幌市白石区東札幌に誕生しました。サテライト型小規模多
 機能ホームとは、本体施設と連携しながら、利用者さんにとってより
 身近で、地域の実情に応じたサービスを提供する施設です。同施
 設は菊水こまちの郷と一体となり、細やかで質の高いケアを提供し
 ています。

ここ数年、菊水こまちの郷では、常に登録定員を超えるニーズが
 あり、受け入れられない方が多くいることが課題になっていました。
 その中で、スタッフの一部が本体施設と兼務でき、既存の住宅を活
 用できるサテライト型施設であれば、大きな労力や準備のための
 時間をかけずに開設できると考えました。こうして新しい取り組みに
 挑戦してニーズに応えようという思いから、東札幌の住宅街にある
 マンションの一角を改装して活動がスタートしました。

個人の思いを尊重し、柔軟なサービスを

同施設の登録者は60代から90代までと幅広く、平均年齢は
 82.27歳。比較的介護度の低い方が多く、介護予防に加え、人との
 コミュニケーションも利用目的の一つになっています。また、1日の利
 用者数が少ないため、その日の利用者さんの状況に合わせて、み
 んなで料理を作ったり、散歩をしたりと、柔軟な活動ができるのも特
 徴です。マンションの中にあるため、アットホームな雰囲気であるこ
 とや、訪問や泊まりのサービスでも、通いと同じスタッフが対応する
 ことで、親しみやすく安心感がある点も、利用者さんやご家族から
 評価されています。

今の生活を維持し、できる限りご自宅で暮らしたいという思いを
 くみ取り、支えていくのが同施設の役割です。一人ひとりの方に
 合った支援方法を工夫しながら、「多くの仲間」というルビナスの花
 言葉のように、みんなが仲良く、笑顔で暮らし続けられるサービス
 めざしています。



家庭的な雰囲気もサテライト型施設ならではの魅力です



マンションに併設されたスペースを施設として利用



安心して泊まりのサービスをご利用いただけます



サテライト型
 小規模多機能ホーム
 るびなす
 副主任 管理者
 澤田 大恵

積極的に地域との連携を図り福祉や介護のよりどころに

当施設を利用される方は「できるだけ長く在宅で」とい
 う思いを持たれています。その方が大切にされていること
 を尊重しながら、今の生活を続けるためのお手伝いをす
 るように心がけています。

開設から1年がたち気づいたのが、多くの利用者さん
 が会話を求めているということでした。ご家族と同居され
 ている方でも、昼間は一人で過ごすことが多く、人との触
 れ合いを求められているのだと感じました。そのため、体

操や工作を行う時でも、コミュニケーションを図ることを念
 頭に、会話が弾むように工夫しています。

当施設の良さは、柔軟なサービスを提供できることで
 す。地域に密着した施設として、近隣にあるほかの施設
 や町内会とも連携し、在宅での困りごとを何でも相談し
 てもらえる存在になりたいと考えています。

CASE 2 ご自宅と入所施設の間にある施設として生活を支援

小規模多機能型居宅介護つむぎ

介護が必要な方の生活を幅広くサポート

2019年10月、手稲駅から徒歩10分ほどの閑静な住宅街に「小規模多機能型居宅介護つむぎ」を開設しました。一軒家をそのまま利用した施設は家庭的な雰囲気のため、友人の家に遊びに来るような感覚でサービスを受けていただけます。

近隣には、同施設の母体である手稲つむぎの杜や手稲溪仁会病院があり、質の高い福祉や医療のサービスを提供してきました。開設の背景には、持病や障がいがあっても自宅で長く暮らしたい、と考える方が増える中、手稲地域でも複数の介護サービスを組み合わせる在宅生活をサポートする小規模多機能型居宅介護へのニーズの高まりがありました。

登録者定員は29名で、通いは1日に15名、泊まりは5名までとなっています。訪問サービスも提供しており、同じスタッフが担当するため、利用者さんの状態に合わせた切れ目のないサービスが強みになっています。



静かな住宅街にある一軒家。庭では家庭菜園も楽しめます



体力や生活機能を維持するため、体を動かす活動を取り入れています



自宅で生活続けるためにできる支援を

利用者さんの年齢層は80代から100歳近くまでと高齢の方が中心で、軽度の認知症を患っている方が大半を占めます。認知症の方は、ご家族と同居していても自宅での生活を維持するのが難しい場合がありますが、同施設を利用いただくことでご家族の負担を軽減することができます。食事や服薬の管理が難しく、従来であれば施設に入所していた方でも、専門的な支援を行うことで、今の生活を続けられるように手助けするのが同施設の役割です。

通いの利用者さんには食事や入浴、趣味活動を提供するほか、なるべく体を動かす機会を設け、生活機能の維持を図るように工夫しています。利用者さん同士が会話を楽しんだり、スタッフと触れ合ったりする場面も多く、ご家族からは「(同施設を)利用してから表情が明るくなり、自分から話すようになった」という感謝の声もいただいています。

複合的な生活支援を提供する施設として、今後は訪問サービスにより力を入れ、通い、訪問、泊まりの3つをバランスよく利用してもらうことをめざしています。また、同施設の役割を地域の方々に広く理解してもらい、医療や福祉をつなぐ相談窓口としての機能を担うことも目標にしています。



広い和室を泊まり用の部屋として活用

地域密着型施設の強みを活かし臨機応変なサービスを追求

小規模多機能型居宅介護は、ご自宅と入所施設の間に位置する存在だと考えています。介護サービスはたくさんありますが、思うようなケアを受けられない方もいらっしゃると思います。あと少しの支援があればご自宅で生活ができるという方を、サービスを臨機応変に組み合わせて支え、なるべく長く今の暮らしを続けていただけるようにすることが、地域密着型である当施設の使命でもあります。

当施設では、ご家族のレスパイト(休息)も重視してい



小規模多機能型居宅介護つむぎ主任 管理者
渡邊 基士

ます。安心してご利用いただくことで、ご家族の介護にかかる負担を少しでも減らしたいと思っています。

今後は近隣の方に当施設の役割を周知する活動に取り組む予定です。生活の近くにあり、いざというとき頼っていただけるのが当施設の強み。そのためにもサービスの質を高め、多様なニーズに応えたいと考えています。

CASE 3 退院後の患者さんの療養生活を訪問看護でサポート

手稲溪仁会病院 短期訪問看護室りんく

急性期からの“つなぐ”看護をめざして

手稲溪仁会病院では、患者さんが退院される際、医師や病棟看護師、退院支援担当者らが療養生活に求められる支援を検討し、必要に応じて病棟看護師が「退院後訪問指導」として訪問看護を実施しています。そこで培ったノウハウを活かして、2019年6月から、退院後訪問指導の対象とならない患者さんにも継続的に看護を提供する「短期訪問看護室りんく」を開設しました。

りんくでは「心に寄り添い、安心を地域につなぐ」をテーマとし、退院直後から1カ月程度の在宅亜急性期において、在宅療養へスムーズに移行できるように支援を行っています。対象となるのは、過去に訪問看護の利用がなく、退院後に同病院の主治医が治療を継続する方で、対象地域は、札幌市の手稲区・西区・北区、石狩市、小樽市となっています。

訪問看護を行う中で、さらに継続的な支援が必要と判断した場合は、他の訪問看護ステーションに引き継ぐために調整を図ります。2019年の実績は38名の方に訪問を実施し、再入院された方

や病状が安定した方以外は、全員他の訪問看護ステーションに引き継ぐことができました。

急性期病院に求められる在宅療養支援は、治療選択の支援や、その方らしい生活を続けるために地域の関係者に適切に“つなぐ”ことです。安心して希望する生活を続けられるようにサポートすることで、地域医療への貢献を果たしていきます。



患者さんのご自宅を訪問し、必要があれば地域の訪問看護ステーションに引き継ぎます

CASE 4 医療ケアが必要な小児への訪問サービスを開始

訪問看護ステーションあおば

高度なケアが必要な方の生命を支えるために

訪問看護ステーションあおばでは、2019年7月に重症度が高い方への訪問看護を、同年8月からは重度の病気や障がいのあるお子さんへの訪問看護と訪問リハビリを開始しました。同ステーションのある札幌市厚別区は高齢化率が高く、医療や介護のサービスを受けながら自宅で生活を続けられる方が多い地域です。同ステーションでは重症度の高い利用者さんに対応できる看護師を増員し、専門的な医療を必要とする方や終末期の方などにもケアを提供できる体制を整備。さらに小児にも対応することで、多様な方のニーズに応えています。

小児の訪問看護・リハビリには、成長の過程にあるお子さんの心身の変化を理解し、成長に合わせた支援をすることが求められます。同ステーションでは、重症児のケアに長年携わってきた看護師やNICU(新生児特定集中治療室)の勤務経験を持つ看護師、小児へのリハビリ経験が豊富な理学療法士からなるスタッフが専門的なサポートを提供。ご家族の気持ちにも寄り添いながら、

生命と生活を支えるケアを行っています。

また、訪問サービスを利用いただくことで、利用者さんと地域とのつながりが広がります。特に災害時には利用者さんが孤立せず、迅速なサポートが可能となります。これらの訪問サービスのメリットを多くの人に知ってもらうことで、利用を促していきたいと考えています。



医療度の高い方から小児慢性疾患まで、幅広く対応しています

Actions 2019

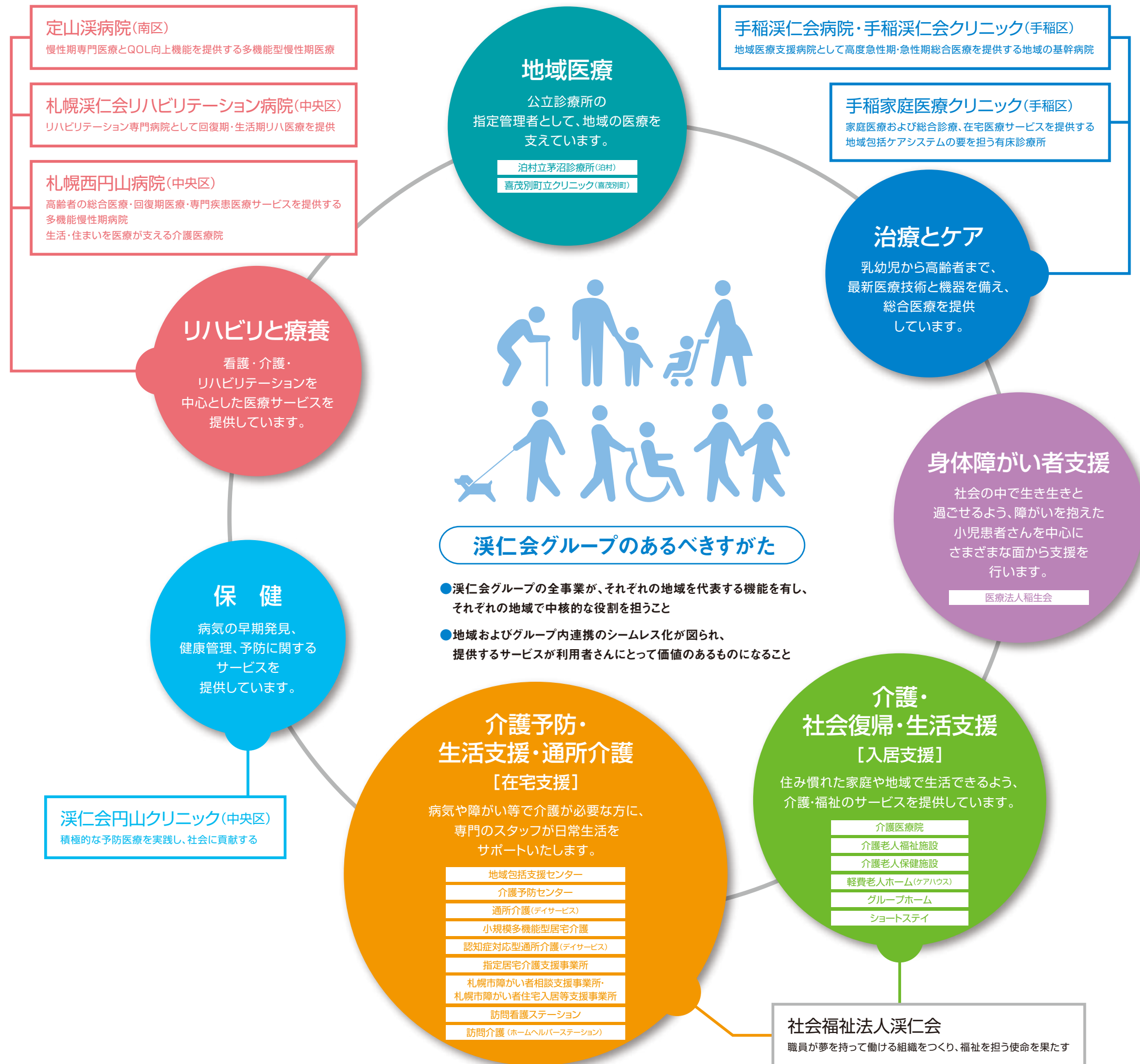
「あるべきすがた」を、 「実現しているすがた」へ

溪仁会グループは、『「ずーっと。」人と社会を支える』という社会的使命を達成するため、CSR経営を続けてきました。超高齢社会となる2025年を控え、保健・医療・介護・福祉事業を取り巻く環境は大きな転換点を迎えています。その中で社会的使命を実践し続けていくために、中期経営ビジョン「ビジョン溪仁会2020」を策定し、2015年11月に発表しました。

ビジョン溪仁会2020は溪仁会グループの「あるべきすがた」を定め、2020年までにその構築をめざした戦略として立てた経営計画です。また、この5年間でグループの各病院・施設・事業所も、それぞれのあるべきすがたを見据え、その実現に向けて施設整備や機能の見直し、人財育成*を進めてきました。刻々と変わり続ける社会制度や地域社会のニーズには、年度ごとのグループ経営基本方針でその動きを捉えて対応し、事業活動と組織づくり、地域活動に励んできました。

2020年は、次の時代に向けて新たな中期経営ビジョンの形成に取り掛かる時です。そのために2019年度は、あるべきすがたを確実に「実現しているすがた」にする年として、各病院・施設・事業所はそれに向けた活動に重点的に取り組みました。それらの活動を中心に、あるべきすがたを実現した先にめざす地域貢献、より良い未来のかたちについて、お伝えします。

* 溪仁会グループでは人材を宝ととらえ、「人財」と表記しています。





手稻溪仁会医療センター

私たちのあるべきすがた

地域医療支援病院として高度急性期・急性期総合医療を提供する／
家庭医療、総合診療、在宅医療サービスを提供する地域包括ケアシステムの要



高精度放射線治療装置の導入による新たな可能性。 多職種と連携し、より精度の高い治療を追求する。

手稲溪仁会病院 放射線治療科 主任部長 放射線治療室 室長 **三浦 勝利**



Challenge	Action	Next Step
放射線治療が必要な患者さんのニーズの増加に対応する	高精度放射線治療装置を導入し、放射線治療の質を高める	ノウハウを蓄積し、より多くのがん治療への活用を図る

手稲溪仁会病院は、2009年に地域がん診療連携拠点病院に指定され、高度かつ専門的ながん治療を提供してきました。2019年11月からは高精度放射線治療装置「トモセラピー」を導入し、がん治療のさらなる強化を図っています。

放射線治療専門医の資格を持ち、放射線を用いた治療方針の決定や治療計画の立案を担当するのが三浦勝利放射線治療科主任部長です。三浦主任部長は、一般企業での勤務経験を経て、医師を志したという経歴の持ち主。2014年に同病院の放射線科に着任し、放射線治療の質の向上に尽力してきました。「私が医師になったのは40歳を過ぎてからでした。若い人のような体力はないけれど、治療の効果が高い放射線分野であれば、がんに苦しむ患者さんの役に立つことができるのではないかと考えました」

トモセラピーはX線によってがん治療を行う装置です。内蔵されたCTでがんのある部位を撮影し、正確な位置を把握した後、がん組織に向けて精密な放射線照射を行います。治療のたびに画像を撮影し、がんの位置情報を修正するため、正確に放射線照射ができ、周囲の正常な組織に与えるダメージの軽減も期待できます。同病院ではこれまでも高精度な放射線治療を行っていましたが、トモセラピーの導入によって、がんのある部位と正常な組織が近接しているような前立腺がんや頭頸部がんにおいても、放射線治療が可能になりました。「トモセラピーを用いることで、従来は困難だった治療計画も実現できることが増えました。また、1回の治療時間が15分程度と短く、患者さんの心身への負担も軽くなっています」と三浦主任部長は導入の効果を説明します。

「現在は治療計画とその検証に1週間ほど要していますが、この準備期間を短縮し、より迅速に治療を提供できるようにしたい」

と三浦主任部長は言います。「心がけているのは、患者さんの大切な時間を無駄にしないということ。放射線治療に携わるスタッフたちと常に情報共有を図り、緊密に連携することで医療の質を高めています。放射線治療と他の治療方法を組み合わせるなど、他科とも協力し、患者さんにとってより良い治療の選択肢を提示していきたいと考えています」



高精度放射線治療装置「トモセラピー」



10年かけて地域に浸透した家庭医という存在。 有機的に協働するチーム医療の確立をめざす。

手稲家庭医療クリニック 院長 **大塚 亮平**



Challenge	Action	Next Step
家庭医療専門のクリニックをつくり、医師を育てる	訪問診療や看取りにも取り組み、幅広い医療ニーズに応える	チーム医療の充実を図り、患者さん中心の医療を実現する

手稲家庭医療クリニックは、家庭医療と総合診療を提供する医療機関として2009年に開設しました。以来、幅広い疾患に対応し、住民の健康を守る“かかりつけ医”として、地域に密着した活動を続けています。

2020年から院長を務める大塚亮平医師は、医学部在学時に家庭医になることを決意し、アメリカの大学での研修と医療センターでの勤務を経験。2016年に帰国し、同クリニックに着任しました。「当クリニックのことは、前院長の小嶋一先生や、手稲溪仁会病院の臨床研修部長を務める星哲哉先生を通じて知っていました。私と同じようにアメリカで家庭医の研修を受けた先輩方が、理想とする医療の実現や医師の育成に取り組まれている環境に魅力を感じました」と、日本での勤務先を選んだ理由を語ります。

同クリニックは併設の訪問看護ステーションと連携し、手稲区ではまだ実施施設数が少ない訪問診療を行っています。開設から10年以上にわたり訪問診療を続けてきたことで、「ご自宅で亡くなることが可能になった」と大塚院長が言うように、自宅での看取り

を希望する方の数は少しずつ増え、ここ数年は年間で約70名、2020年は90名ほどになると予想されています。また、連携する地域の行政機関や医療機関から、医療上の困難を抱える方の相談を受けることが増えているのも、同クリニックの役割が理解され、評価されていることの裏付けではないか、とも話します。

新たに見えてきた課題もあります。例えば、同クリニックではチーム医療を重視していますが、その質をさらに高めるには、スタッフがシームレスに協働できるチームワークと、互いを理解する姿勢が必要だと大塚院長は考えています。そうした「風土」を育む組織づくりも今後の目標の一つです。

「これからは職員の働きがいや働きやすさも重視される時代。誰もが力を発揮できる職場環境にすることで良い医療が提供できるようになり、それがやがて地域の健康の向上にもつながっていくはず」と、理想とする医療の姿を語ります。地域に寄り添う家庭医療と、それを支えるチーム医療の可能性を追求する取り組みが続いています。

Actions 手稲溪仁会医療センターの活動トピックス

構造的心疾患 (SHD) に対して体の負担の少ない治療を実施

心臓の構造異常に対する
カテーテル治療に取り組む

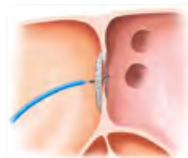
弁膜疾患、先天性心疾患、心筋疾患など、心臓の構造異常によって病的状態をきたす疾患のことを構造的な心疾患 (SHD) といいます。近年は、治療技術の進歩や機器の開発が進み、体への負担が少ないカテーテル治療が可能となりました。

手稲溪仁会病院では、2014年6月に重症大動脈弁狭窄症への経カテーテル的大動脈弁留置術 (TAVI) の第1例の施術を皮切りに、SHDへの低侵襲な治療に取り組んでいます。TAVIは開胸せずにカテーテルを用いて心臓の硬化した大動脈弁を生体弁へ置き換えることができ、これまで外科的治療ができなかった患者さんにも治療をすることができるようになりました。同病院はTAVIを開始してから、最新の生体弁など新しい技術を取り入れ、これまでに200例以上を施行しています (2020年2月現在)。

卵円孔開存 (PFO) 閉鎖術
道内初の実施設に認定

同病院は、2019年12月に道内で初めて「卵円孔開存 (PFO) 閉鎖術」の実施設に認定されました。卵円孔開存とは、左右の心房を隔てる心房中隔の壁に隙間があいている状態です。静脈系に血栓が存在すると、卵円孔から脳へ血栓が流れ、脳梗塞のリスクになることが明らかになっています。そこで脳梗塞の再発予防策として、カテーテル治療で卵円孔を閉鎖する卵円孔開存閉鎖術に取り組んでいます。平均5日程度の入院で治療でき、若年層の脳梗塞患者さんが抗血栓薬を長期服薬する負担がなくなる可能性があります。

同病院では、心臓血管センター長を中心に、循環器内科専門医、カテーテル治療専門医と脳卒中専門医、コメディカルスタッフでブレインハートチームを構成し、卵円孔開存閉鎖術の適応について検討しています。今後も、スタッフ間で綿密な連携を取りながら、動脈硬化のリスクの少ない若年層の脳卒中患者さんの再発予防に取り組んでいきます。



手稲溪仁会病院では2019年4月に血管造影室をリニューアルし、道内で初めて血管撮影装置「Azurion7 B20/15」を導入しました。カテーテル治療に必要な透視画像をより鮮明に得ることができるようになりました。



食道疾患センターの取り組み

2019年4月1日、手稲溪仁会病院は食道疾患センターを開設しました。治療が困難かつ総合的な診断・治療を必要とする食道疾患の症例に対し、6つの診療科、6つの協力診療科、7つの診療部が協力しながらチームで対応しています。2カ月に一度、センター全体で実績報告や事例検討、医師・コメディカルの研究発表などのカンファレンスを行い、連携を強めています。また、食道がん患者さんの治療方針を決めるカンファレンスについては毎週1回実施しています。

大地震に備えた防災訓練を実施

2019年9月21日に院内災害訓練を実施しました。手稲区での震度6弱の大地震発生を想定し、災害対策本部設置から院内の状況確認、各医療ゾーンの立ち上げ、被災者の受け入れの流れを確認。職員190名が参加したほか、外部消防士7名、患者役として吉田学園医療歯科専門学校の生徒55名にご協力いただきました。



産婦人科外来がリニューアルオープン

診療内容の高度化による設備の拡充

手稲溪仁会病院の産婦人科では、ハイリスクな出産や救急症例が増加しています。また、年間1,600件以上の婦人科手術や300件以上の体外受精を実施するなど、診療内容の高度化とニーズの増加が進みました。その需要に対応できる施設とするため、2019年4月に産婦人科外来をD棟3階へ移転リニューアルしました。

より多くの患者さんを診療するために、今回のリニューアルでは診療スペースの拡充に取り組みました。

各設備のリニューアル点

リニューアルに伴い、施設内を患者さんのプライバシーに配慮したつくりにしました。待合室は産科と婦人科に分け、さらに通路から見えないよう配置しました。また、産科2室、婦人科3室の診察室はすべて個室にし、問診から診療までを一部屋で完結できるようになっています。

さらに、診察までの待ち時間を短縮するために、効率的に診察ができるように施設を拡充しました。産科では、胎児モニター室を拡張。胎児の心拍数と子宮の収縮状態を調べるNST (ノンストレステスト) を、複数の妊婦さんが同時に受けられるようにしています。また、子ども連れで健診を受ける方のために、絵本やDVDなどを置いたプレイルームを設置し、待ち時間を快適

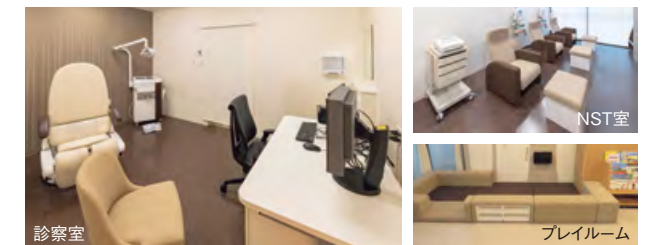
に過ごしていただくための環境を整えました。

婦人科には通常の診察室のほかに、子宮頸がん検診の結果で異常が疑われた際に行うコルポスコピー検査や子宮鏡検査、救急患者さんの診察などあらゆることに対応できる診察室を設置しました。

また、専用のベッドを備えたリンパ浮腫外来用の3室の個室には、専任のセラピストを配置し、より充実した診療が受けられるようになりました。

これからの産婦人科の取り組み

手稲溪仁会病院の産婦人科は、地域医療支援病院として、地域の医療機関からの紹介患者を受け入れています。このたびのリニューアルで外来が拡充され、より多くの患者さんの受け入れができるようになりました。今後は紹介外来の枠を増やし、受診までのアクセスを短縮させていきます。また、当病院から地域のかかりつけ医への紹介も積極的に行い、地域連携のもと治療後のフォローの充実もめざします。



重篤な小児患者の転院搬送チーム始動

手稲溪仁会病院では、人工呼吸管理や、循環管理などが必要な小児患者さんを他医療機関から受け入れ、集中治療を行っています。その転院搬送の際、諸管理を行い安全に患者さんを運ぶための、重篤な小児患者さんの転院搬送チームを結成しました。

広域な北海道では、ヘリコプターや飛行機 (メディカルウイング) による搬送対応も行っています。その場合にも、転院搬送チームを搬送元医療機関へ派遣し、安全で確実な方法のもとで搬送します。

学校がん教育への取り組み

学校教育の現場において、「がん教育」の内容を含んだ新学習指導要領に基づいた授業が2020年度から本格導入されます。手稲溪仁会病院では2019年より先行して一部近隣小学校でのがん教育授業に講師を派遣しており、院内報告会も実施しています。また、その動きに合わせて「札幌市内がん診療連携拠点病院「学校がん教育」連絡会議」が発足し、同病院は連絡会議の事務局を担当しています。



職員親子と院内見学「こども探検隊」を開催

2019年11月23日、第4回となる手稲溪仁会病院の院内見学ツアーを開催しました。今回は初の試みとして同病院職員親子を参加対象とし、21組55名が参加しました。当日は手術室やリハビリテーション室などの見学を行い、子どもたちの職業観を醸成するほか、親子のコミュニケーションの機会となりました。



「手稲健康体操」で市民の健康づくり

手稲溪仁会病院リハビリテーション部は、地域住民の健康づくり、介護予防を推奨するために「手稲健康体操」を考案しました。65歳以上を対象に、運動の習慣がない方も安心して行える内容で、週2回参加費無料の教室を催し、指導してきました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、YouTubeにて自宅で行える運動や健康講話の動画を配信しています。



栄養部オリジナルレシピが賞を受賞

手稲溪仁会病院栄養部では、健康を考えたオリジナル料理を開発し、入院患者さんへの提供を行っています。読売新聞が運営するウェブサイト「yomiDr. (ヨミドクター)」のレシピコーナーへの掲載など病院外へも活動を広げており、2019年に掲載されたレシピが企業特別賞を受賞しました。



ボランティア「青い鳥」20周年記念誌を発行

手稲溪仁会病院のボランティア「青い鳥」は、病院を訪れる方々が安心して心地よく病院を利用できるよう、院内の案内や患者さんのお話し相手などの活動を行っています。1998年より活動を始め、2018年10月には創設20周年を迎えました。それを記念し、2019年2月にこれまでの活動をまとめた「20周年記念誌」を発行しました。



ステーキホルダーの声

北海道大学病院
病院長
秋田 弘俊氏



がんゲノム医療での交流を進め 地域医療の最後の砦として共に前進を

北海道大学病院は、2018年にがんゲノム医療中核拠点病院に指定されました。手稲溪仁会病院には連携病院として、本院の医師と専門家会議を設けての遺伝子検査結果の検討や、患者申出療養制度での診療連携でご協力いただいています。

効果的ながん治療にアクセスできる方を増やすためにも、北海道における遺伝子検査の数は、まだまだ増やしたいところです。手稲溪仁会病院と共同研究を実施し、対象となる患者さんの掘り起こしを進めていきたいと思

います。また、それに向けては人材育成が急務と感じています。手稲溪仁会病院は医師からメディカルスタッフまで、職員の方々が熱心で頼もしく、今後勉強会や研修会、実習などで交流を進めていければと思います。

手稲溪仁会病院は北海道における高度急性期医療の旗頭。がんはもちろん、さまざまな分野の最先端医療に意欲的で、常に敬意を感じています。高度な医療機能を持ち札幌医療圏のセーフティーネットの役割を果たすパートナーとして、共に前進していければと願っています。

COLUMN ①

「その先の、医療」のあるべきすがたを見据えて。 全国の医療人と共に考え、議論を深める。

第69回日本病院学会開催報告

2019年8月1・2日の2日間にわたり、第69回日本病院学会が札幌市コンベンションセンターで開催されました。医療法人溪仁会 田中繁道理事長が大会長となり、手稲溪仁会病院 成田吉明院長が実行委員長、そして同病院が事務局を務めました。日本病院学会の北海道での開催は3回目となりますが、前回の開催から20年以上が経過した久々の開催ということもあり、有意義な学会とすべく前年4月から院内でも実行委員会を立ち上げ、準備を進めました。

大会のテーマは「その先の、医療へ」としました。2025年問題、さらにその先の2040年問題をも見据えて、医療人はこれまでの延長線上ではない、革新的な医療体制の構築に取り組まなければならない、という思いを込めています。地域包括ケアシステムや医療格差、医師偏在、働き方改革、AI・ICTの活用など、さまざまな関心事について議論と情報交換ができる場と位置づけました。

当日は医療従事者や関連企業の方々など、全国から2,501名の方にご参加いただきました。開会式の後、日本病院会会長、日本医師会会長による講演があり、その後に田中大会長が「その先の、医療へ」をテーマにした講演を行いました。

一般口演は445題、ポスター発表は143題が集まりました。また、シンポジウムとして日本病院会企画の6セッション、学会企画の3セッションを実施。ほかにも「働き方改革」「チーム医療」をテーマとした2つのワークショップ、医療経営についてのセミナーや昼食をとりながら講演を開くランチョンセミナーを行いました。1日目の終わりには懇親会として「医療人の集い」を開催。学会を通して最新の情報が提供され、全国から多くの参加者が交流する機会となりました。

開催期間は北海道としては猛暑となりましたが、参加者に熱中症など健康被害もなく無事終了することができました。今回の開催にあたり、日本病院会をはじめ、ご支援いただいた皆さまには深く感謝申し上げます。



医療が抱える課題を共有し、未来に続くすがたを描く

第69回日本病院学会では、喫緊となった2025年問題やその先にある2040年問題への対応を含め、医療の未来を考える機会となることを意図し、テーマを「その先の、医療へ」としました。少子高齢化が進

行すれば、医療ニーズが減少していくことは明白であり、私たちはそれにどう備えるべきかという問題提起でもありました。

運営にあたり留意したのは、参加者が真に満足していただける学会にすることでした。その

ため、シンポジウムの内容を厳選し開催数を減らすことで、1つのシンポジウムにより多くの方が参加できるようにしました。また、会場を札幌市コンベンションセンターに集約し、会場間を移動する時間や煩わしさを減らしたことも大変好評をいただきました。会場の華やかな演出は控えましたが、その分、懇親会の場では江差追分やアイヌ民族の歌と踊りなどを楽しんでいただき、北海道の魅力が伝わるようにしました。

今回、日本病院学会の大会長を務めさせていただいたことは、大変貴重な経験となりました。また、事務局を担当した手稲溪仁会病院のスタッフも、堅実な運営に努力し、成果を出すことができたのは大きな自信になったことと思います。この経験を糧に、今後も病院医療の質の向上という社会的使命を果たしてまいります。



溪仁会グループ最高責任者
医療法人溪仁会理事長
第69回日本病院学会
大会長 田中 繁道

札幌西円山病院

Close Up
プロジェクト
紹介

地域の健康づくりを支援する「にしまるリハビリ健診」

Challenge	Action	Next Step
地域住民と共に健康づくりに取り組み、介護予防を図る	地元の町内会を対象に体操や体力測定を実施	対象を広げ、より多くの方が気軽に参加できる場に

高齢化が進む地域を支えたいという思い

札幌西円山病院のある西円山地区は、近年、高齢化が顕著になっています。同病院ではここ数年、円山西町町内会と連携・協働を進めてきたことから、地域の健康づくりに貢献できる活動しよう、という意見が職員の間から出されていました。2017年秋から本格的に内容の検討を重ね、2018年4月に「にしまるリハビリ健診」の活動が始まりました。

活動の立ち上げに関わり、現在は取り組みのリーダーを務めるリハビリテーション部言語療法の齊藤潤主任は「摂食・嚥下外来のリハビリテーションを担当した経験から、地域で暮らす高齢の方を支える活動に関心を持っていました。慣れ親しんだ地域で暮らし続けられるように積極的な健康づくりで介護予防を図ること、ご自身でも気づかない体調の変化を早めに見つけ、外来受診につなげることを主な目的に、円山西町町内会の方を対象にした健康づくりサポートを開始しました」と振り返ります。

初年度は円山西町町内会館を会場に、医師やリハビリテーションスタッフによる健康講座と軽い運動メニューを提供。心身の状態を知ってもらうために健診も行い、改善に結び付けられるようにしました。地域限定ではありましたが、12回の開催で延べ55名が参加し、9割以上の方がアンケートに「満足」と答えられました。

多職種と連携し、より実践的な内容に

2019年度は同病院のスマイルカフェ（認知症カフェ）や地域公開講座の参加者、入院患者さんのご家族、円山地域の住民にも対象を拡大。開催場所を同病院内に移し、アクセスしやすくなりました。また、前年のアンケート調査では実践的な内容を求める声が多かったため、時間を20分短縮して60分間とした上で、運動の時間を多く取るように変更しました。その結果、8回の開催で108名の方にご参加いただきました。「より具体的な内容にして、実施前と後で効果を実感できるようにしました。健康運動指導士や音楽療法士にも協力してもらい、楽しみながら実践できるプログラムを取り入れたことも好評だったようです。アンケートでは100%の方が満足と答えられました」と齊藤主任は活動の手応えを話します。

今後の目標は、家から出られない方や介護が必要な方も活動の対象にしていくこと。困難を抱える方をどう支援していくかが課題でもあると齊藤主任はいます。「介護予防センターと連携して、出前講座のようなことができればと考えています。私たちが地域に出て、情報発信することでつながりが生まれるはず。長くご自宅で暮らすためのお手伝いを続けていきたいと思います」



札幌西円山病院
リハビリテーション部
言語療法科
主任
齊藤 潤



どなたでも気軽にできて、ご自宅でも続けられるプログラムになっています



イメージキャラクターの「リハケンくん」は、親しんでもらえるようにと、同病院のスタッフが考案しました

Actions 札幌西円山病院の活動トピックス

介護職のキャリアアップに向けた取り組み

札幌西円山病院では、介護の人財を地域から発掘し、めざす介護を提供できる介護職を育成する取り組みを強化しています。

介護を語る場づくり

介護主任会議の中で「介護を語る会」を設け、「にしまるが大切にしている介護」を自分たちの言葉で表現し、共有することから取り組みを開始しました。自分たちが大切にしている介護を、日常の介護を提供する場面やさまざまな経験から見いだし言葉にすることは、「介護観」を意識化することにつながります。この取り組みは、「にしまるでの介護」にやりがいを感じ、さらに良い介護をしたいという意欲につなげることをめざしています。

大切にしている介護の発信

2019年9月に介護職募集パンフレットを発行しました。パンフレットには、「介護を語る会」で言語化した「寄り添い思いやりのある介護」を表現する写真を介護主任の中で選択しました。

また、2019年11月13日には、介護福祉士をめざす市内の高校生を対象とした「介護の日ふれあい介護体験会」を初開催しました。この会には7名の生徒が参加し、病院の機能や概要、感染予防などについて説明を聞いた後、高齢者疑似体験をしたり、実際に病棟へ行って介護の場面を見学しました。これらのプログラムには介護主任が対応し、最後の意見交換会では介護の仕事についての質問など、さまざまな場面で介

護について参加者に伝えることができました。また、介護福祉士養成学校の訪問に介護主任が同行し、新規採用に向けて自分たちの介護を語り、顔の見える関係づくりをすることで人材確保につなげています。

これらの活動を通して介護主任や関わった介護士が、自らの介護実践に価値を見いだし、より良い介護に向けてさらに成長していけるものと考えています。



新パンフレット

自分らしい介護職になるための教育体制

介護職がワークライフバランスを実現しつつキャリアを開発していくための仕組みとして、独自の介護キャリアラダーシステムを設けています。各段階で実践能力、組織的役割遂行能力、自己研鑽・研究能力を測り、自身の課題と目標を明確にしながら学習プランが考えられるようにしました。ラダーの構成は看護職と統一し、一緒に研修を受けられるようにしています。そこに参加することは管理職としての成長につながります。

医療安全対策や地域活動についても連携を深め情報交換していきたい

当病院は血液内科、消化器内科、糖尿病内科が専門性の高い治療を提供する急性期病院です。札幌西円山病院とは、当病院で治療を終えた患者さんの転院先として、また札幌西円山病院の患者さんに急変、体調悪化があった際の救急受け入れ先として地域連携を行ってきました。2020年4月からは医療安全対策地域連携加算の連携医療機関となり、今後はお互いの医療安全対策をレビューし合っていくことになります。病院の機能の違いはあるものの、いただいたご意見を参考にして医療安全の取り組みを向上させていきたいです。これまでの連携に加え、さまざまなセクションで交流を深めたいと思います。

当病院の周囲は住宅地でマンションが多く、定期的に健診を受診するなど、比較的若い層で健康志向の高い方が多いと感じます。地域に向けて健康や医療の必要な情報を発信する啓発活動にも力を入れてきました。札幌西円山病院も、地域に密着した活動を多くされているので、協力し合えばさらに充実させられるだろうと思います。

ただ、現在は新型コロナウイルス感染症予防のため、病院に人を集めることは難しくなっています。今後どのようなやり方がいいのか悩むところで、その辺りも情報交換をしながら、円山地域全体の健康意識を高め、予防活動を展開していきたいと思っています。

ステークホルダーの声
医療法人 菊郷会
愛育病院
理事 院長
岡本 宗則氏





慢性期であっても積極的な治療が求められる時代に。 断らない医療で当病院の存在意義を示していきたい。

Challenge	Action	Next Step
従来の慢性期医療にとどまらない医療の姿を追求	地域との連携や在宅医療で地域包括ケアを支える	多様な患者さんを受け入れ積極的な医療を提供

1981年の開設以来、定山溪病院は質の高い慢性期医療を追求してきました。地域包括ケアシステムの構築が急がれる中、近年は専門性の高い外来診療や在宅医療の提供、病床再編などを実施。2019年7月には、心臓血管外科専門医として活躍してきた中西克彦医師が院長に就任し、慢性期医療の新たな価値の創出に向けた取り組みを開始しています。

中西院長は大学病院の胸部外科勤務やアメリカの大学への研究留学などを経て、1996年に手稲溪仁会病院心臓血管外科に入職し、22年間にわたり患者さんの生命を救う急性期医療の現場に携わってきました。心臓血管センター長を務めた後、2018年に定山溪病院に異動し、そこで慢性期医療への認識が大きく変わったといいます。「ここでは患者さんを寝たきりにせず、積極的にリハビリテーションを行っていました。当病院が取り組む抑制廃止も、初めは半信半疑でしたが、職員たちの努力や高い対応力によって実現していることにとても驚きました」

院長就任後は、院内のワーキングチームへの参加や院内運営会議の開催、職員との交流を深める院長カフェの実施を通し、職員の思いや現場の実情を知ることが大切になってきました。「現場で起きていることを把握し、課題や悩みがあれば解決に向けて努力

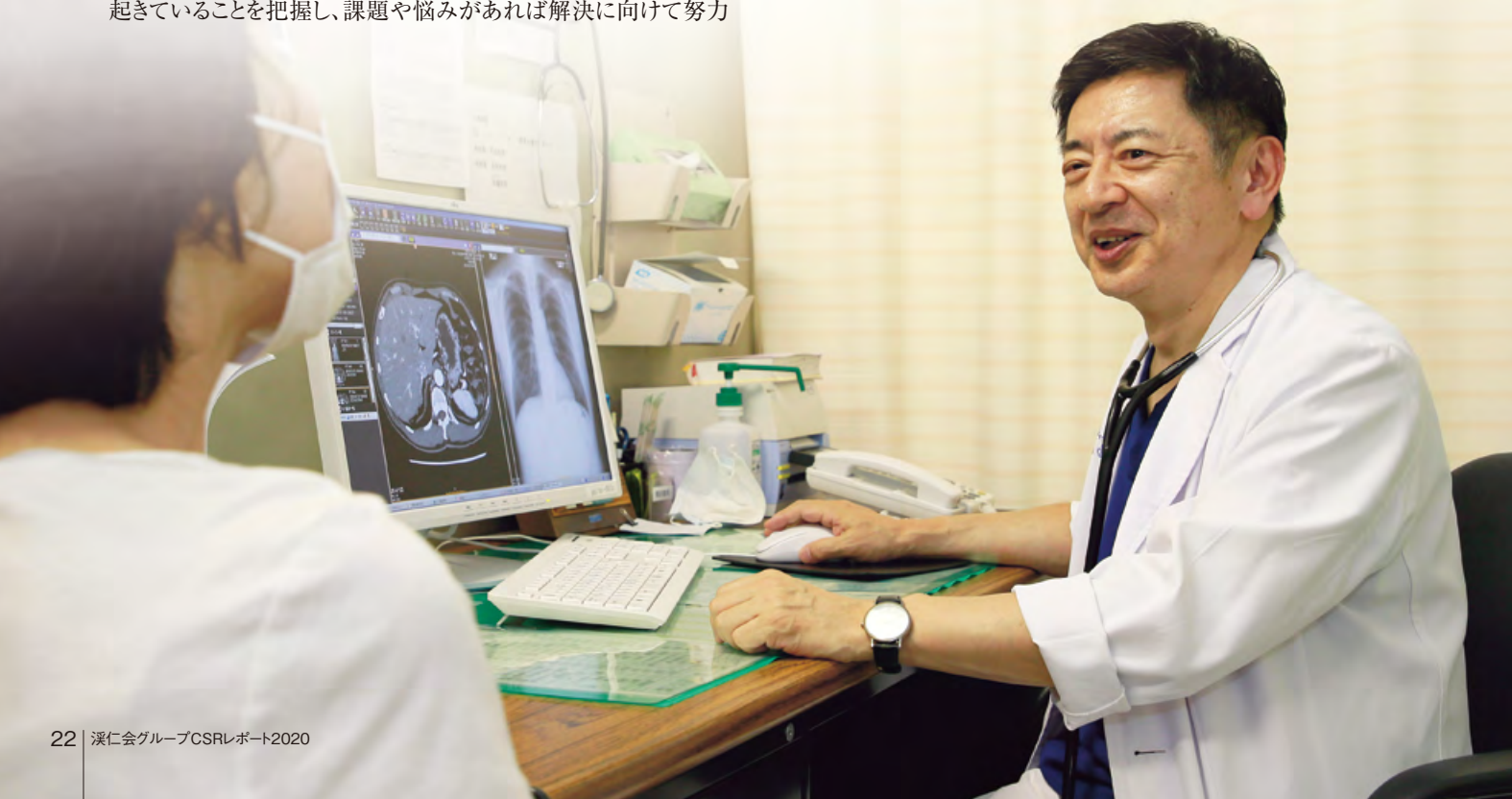
する。職員が働きやすい環境づくりも、組織のトップの重要な仕事」とその目的を語ります。

社会の高齢化に伴い、慢性期医療の機能も変化してきています。これからはリハビリテーションを目的とした入院や、在宅や施設で療養している患者さんの急性増悪といったケースにも幅広く対応することで、慢性期病院の存在意義を示すことができます。「医療を必要とする人に積極的に関わり、より良い治療を提供することで、元の生活に戻ることを支援するのがこれからの慢性期医療の役割になると考えています」。今後も「断らない医療」を実践し、さらなる医療体制の強化に取り組む予定です。また、同病院の医療の質を広く訴求し、全道から患者さんを受け入れることも目標にしています。

「常に頭にあるのは、当病院だからこそできる医療とは何か、ということ」。質の高いリハビリテーションとケアを強みに、新しい慢性期医療への挑戦が始まります。



定山溪病院
院長
中西 克彦



Actions 定山溪病院の活動トピックス

看護・介護の質を院内研修で高める

定山溪病院ではケアの質を高めるため、看護・介護職員を対象に院内研修を実施しています。2019年8月に行った看護部の呼吸ケア研修では、手稲溪仁会病院からクリティカルケア認定看護師を講師に迎え、呼吸のフィジカルアセスメントについて学びを深めました。他にも、エンド・オブ・ライフケア研修や介護職員のための摂食嚥下ケア研修などを行い、ロールプレイを通して実践的な技術や支援方法を学びました。



「特別養護老人ホームふじの」との連携

これまで同病院は慢性期医療機関の未来を探るべく、社会福祉施設との連携を実施してきました。2019年7月には札幌市内最南端の施設として開設した「特養ふじの」との医療連携が始まりました。配置医師として同病院の2名の医師が毎週1回診療を行い、必要があれば入院にも対応して80名の入居者の医学的管理を行っています。また、看取りの支援や夜間急変時の対応など幅広い活動を行っています。



地域の小学生に歯の健康の大切さを伝える

2019年10月8日に定山溪小学校の児童15名が歯科見学の体験学習に訪れました。これは、歯と口の健康づくりについて学び、地域に発信しようという同校の取り組みに協力し、毎年行っているものです。参加者は久米麻也子歯科診療部長から口の健康管理に関する講義を受けた後、入院患者さんの口腔ケアの様子を見学。学習の成果は11月8日に同校で行われた発表会で披露されました。



『人生の最終段階を支える医療』発刊

中川翼名誉院長や菅原啓前院長をはじめ、職員一同が筆者として関わった冊子『人生の最終段階を支える医療～定山溪病院の実践～』を2019年4月に発刊しました。終末期医療と向き合ってきた同病院の取り組みをまとめたもので、中川名誉院長の講演録や、患者さんとそのご家族を支えるための活動事例などが収められています。



地域の在宅医療や高齢者医療を支えるため 新たな医療の仕組みづくりに挑戦を

2019年に札幌市の南区で訪問診療専門のクリニックを開業しました。定山溪病院には地域包括ケア病棟があり、入院の受け入れ体制が柔軟なことや、優れたリハビリテーションを提供されていることなど、入院が必要になった患者さんを安心して紹介できる環境が整っています。また、私が病棟に伺い、当クリニックの紹介で入院された患者さんの診療を行うこともあるのですが、そうした活動を理解し、協力していただけることも心強く感じています。同病院は内科や神経内科、リハビリテーション科などがあり、専門の先生方からの確かなアドバイスを受けること

ができます。驚いたのは患者さんへの抑制を行っていないことです。同病院の先進的な取り組みを知り、慢性期医療への概念が大きく変わりました。医療機関同士の連携強化が求められる中、同病院のような存在は非常に頼もしく思います。私からの提案は、ぜひ、高齢者の急性期医療を支える取り組みにも挑戦していただきたいということ。地域内で医療を完結できるようにするには、そうした視点も必要なのではないでしょうか。困難かもしれませんが、新しい医療の姿を示すことで、さらに揺るぎない存在となることを期待しています。

ステークホルダーの声
札幌さがクリニック
佐賀 亮介医師



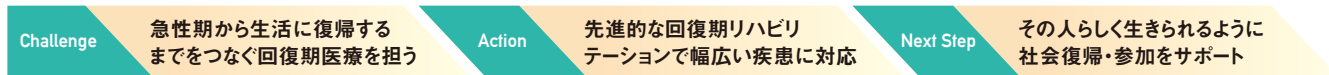


札幌溪仁会リハビリテーション病院

私たちのあるべきがた リハビリテーション専門病院として回復期・生活期リハ医療を提供

Close Up
プロジェクト
紹介

回復期リハビリテーションに特化した先進的な医療の実現



生活への復帰をチーム体制でサポート

2017年に開院した札幌溪仁会リハビリテーション病院は、急性期の治療を終えた患者さんが自宅や社会に復帰するまでの回復期に特化した、回復期リハビリテーションを提供する病院です。3病棟155床すべてが回復期リハビリテーション病棟になっており、専門性の高い医療を行っています。

「当病院では入院当日に患者さんの身体機能の評価や治療方針の説明を多職種を交えて行っています。コメディカルスタッフを含め、誰もが治療を担う一員として高い意識を持ち、全員でその患者さんを支えます」と小川太郎技術部部長が話すように、同病院の特徴は患者さんに関わるすべての職種がチームでアプローチを行っていることです。佐藤義文リハビリテーション部部長も「職種の垣根がなく、常に情報交換や話し合いをしながら、その方にとって最適なケアを追求しています。ご自宅での生活を視野に、専任のリハビリテーションスタッフが退院支援を行う取り組みも始めました」とチーム体制の強みを説明します。

医療の質を高め、社会の信頼に応える

入院患者さんの疾患は、脳血管障害から頭部外傷、脊髄損傷、骨折など多岐にわたるため、一人ひとりに合わせた細やかなケアが求められます。医師やリハビリテーションスタッフがそれぞれの専門性を活かし、協力することで、質の高い回復期リハビリテーション医療を実現しています。

さらに治療の効果を高めているのが、最先端のリハビリテーション機器です。同病院では開院以来、ITやロボット技術を使用した機器を積極的に導入してきました。機器の特性や機能を熟知したスタッフが、患者さんの症状や治療する部位に応じて、効果的に活用しています。

こうした同病院の取り組みが評価され、札幌圏以外の病院からも多くの患者さんをご紹介いただくようになりました。また札幌医科大学附属病院が行う脊髄損傷の再生医療において、治療後の患者さんの受け入れ病院に指定されたことも、同病院が提供する医療の質の高さを裏づけています。

今後の目標について「いかに患者さんを良い状態に引き上げて、社会にお戻りするか。社会参加は人としてとても大切な部分なので、そこを重視していきたい」と小川部長。「障がい者スポーツで活躍できるような患者さんが当病院から出れば、多くの人に希望を与えられるはず」と佐藤部長も夢を語ります。一人でも多くの患者さんの社会復帰を支えるために、地域の回復期リハビリテーションを担っていきます。



札幌溪仁会
リハビリテーション病院
技術部
部長
小川 太郎



最新の機器を使ったリハビリテーションは患者さんからも人気が高く、前向きに取り組めると好評です



ハーネスなどを使い、スムーズな歩行をアシストする下肢麻痺のリハビリテーション支援ロボット

Actions 札幌溪仁会リハビリテーション病院の活動トピックス

自主練習の場としてリハビリ室を開放

医療保険で提供できるリハビリは期間が限られるため、退院後やリハビリ終了後の方、障がいのある方が機能改善に取り組めるよう、健康増進事業「リ・クリエイト桑園」を2019年12月6日に開始しました。同病院のリハビリテーション室を自主練習の場として開放。車いすのままでも利用できるトレーニングマシンをそろえ、理学療法士と健康運動指導士が常駐し、障がいや特定疾患のある方も安心して運動できる施設としています。



初めての病院祭「溪リハ祭」を開催

2019年9月1日に初となる病院祭を開催しました。前年にも企画・準備をしていましたが、北海道胆振東部地震の影響で中止となったため、初めての開催となりました。地域のチームによるよさこいソーランやフラダンスが各フロアや駐車場で披露されたほか、縁日も実施。患者さんやご家族だけでなく、地域住民の方々にもご来場いただき、交流を深める機会となりました。



回復期リハビリテーション病棟の増床

同病院は開院から2年がたち、当初の予想を上回る回復期リハビリテーション病棟に対する需要がありました。そこで同病棟に12床を増床し、全155床としました。この病床は、全3病棟に大きめに作っていたカンファレンスルームを4床の病室に改修したものです。これにより地域に必要な回復期リハビリテーションの入院機能をさらに充実させ、円滑な医療サービスの提供を進めていく予定です。

病院機能評価3rdG: Ver. 2.0認定

2019年12月6日に日本医療機能評価機構の病院機能評価3rdG: Ver. 2.0（機能種別リハビリテーション病院）の認定を受けました。地域に対する教育・啓発活動、療養環境、看護・介護職の病棟業務などについては特に高い評価を受けることができました。フィードバックを活かし、さらに質の高い医療提供をめざしていきます。



ステークホルダーの声

医療法人 美脳
札幌美しが丘
脳神経外科病院
理事長
高橋 明氏



人と地域を支える 令和時代の新しい医療連携の構築を

札幌美しが丘脳神経外科病院は、最先端スマートホスピタルとして、2020年1月に清田区に誕生しました。当院には、AI搭載のCTやMRI、さらに高精細血管撮影装置といった、北海道初上陸の最先端医療機器を導入しています。また、業務改善を目的とした音声入力可能な電子カルテの構築や、iPhoneを導入して内線電話を廃止するなど、ICTを積極的に活用することで最先端スマートホスピタルを実現しました。

当院は58床の急性期病院で、急性期治療を終えた患者さまはその後の治療やリハビリテーションを回復期

病院へ依頼しなければいけません。この連携病院の一つとして、札幌溪仁会リハビリテーション病院は重要と考えています。連携にあたって、従来のように患者さまのやりとりだけではなく、両院の連携体制を整えることで患者さまの先を見据えた、より良い医療の提供を共に進めていければと思います。また、人と地域を支えるための連携をめざし、情報共有のあり方、人材教育の協力体制、人事交流など、いままでの連携を進化させた、令和時代の新しい医療モデルになるような連携形態の構築をめざしたいと考えています。



Close Up
プロジェクト
紹介

迅速な保健指導で健康づくりや生活改善をサポート

Challenge	特定健診の受診促進で健康づくりを支援し病気を未然に防ぐ	Action	特定保健指導の実施率を高め、受診者を継続的にフォロー	Next Step	結果を分析・フィードバックし、健康づくりに役立てる
-----------	-----------------------------	--------	----------------------------	-----------	---------------------------

特定健診受診当日の保健指導を開始

溪仁会円山クリニックは、病気の予防や早期発見を目的とした健診事業と、その結果に基づく健康づくりのための指導によって、地域の健康をサポートしています。特定健診(メタボ健診)と同様に2008年に制度化された特定保健指導の実施に取り組み、対象者の健康意識の向上や生活習慣が改善できるよう、支援を行っています。その一方で、検査結果が出るまでに時間がかかるため、スムーズな特定保健指導に結び付かない方がいることが全国的にも課題になっていました。

この問題を解決するため、2018年に特定保健指導の実施方法が変更され、健診受診当日にすべての結果が出ていない場合でも、指導の対象者と見込まれる場合は、初回面接を行えるようになりました。同クリニックでは、2019年5月から「全国健康保険協会(協会けんぽ)」との間で契約を結び、健診当日の初回面談数は大幅に増加しました。(グラフ参照)

保健事業部の米谷美智子課長は「受診日と初回面接のタイムラグがなくなり、より多くの方に、迅速に健康への意識づけができるようになった効果は大きい」とその意義を話します。

やる気を高める指導で継続的な健康づくりを

健診受診当日に初回面接を実施するようになったことで、動機づけ支援^{*1}・積極的支援^{*2}ともに、大きく実施者の数が増えました。30分という限られた面接時間内でその方の生活背景や人物像を理解し、ライフスタイルに合わせた目標を立てることで、生活改善の取り組みを長く続けられるよう支援することが大切だと米谷課長はいます。「保健指導の期間が終わった後も、自分で続けられることが重要です。腹囲が減るといった効果を実感できれば、やる気が出て長続きするはず。簡単にできることから提案し、前向きに取り組んでいただけるようなサポートを心がけています」

今後はスタッフ間の意見交換や事例検討を通して保健指導のスキルを向上させ、効果をより高めることをめざしています。さらに、蓄積したデータを健康づくりに役立ててもらう活動にも取り組みたいと米谷課長は目標を話します。「受診者のデータを分析し、

健康保険組合や企業にフィードバックできるのが理想です。健康に関する情報を発信することで、組織が自主的に健康づくりを行う手助けができればと考えています」



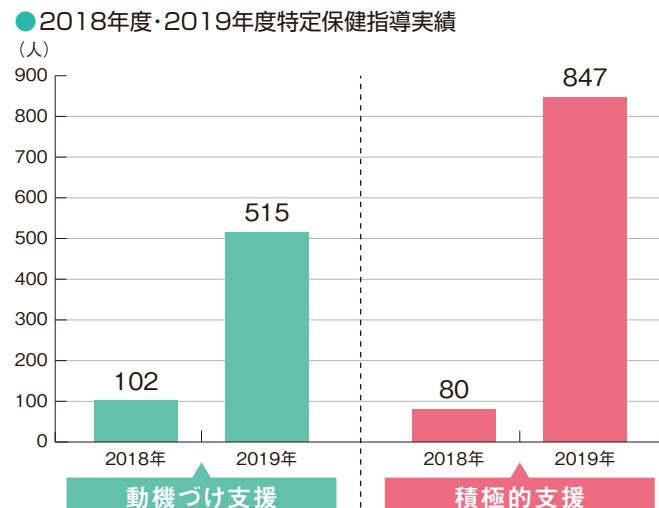
溪仁会円山クリニック
保健事業部 課長
保健指導科 科長
保健師
米谷 美智子

※1 メタボリックシンドロームの予備軍と診断された方に個別支援またはグループ支援を原則1回行い、3カ月以上経過後に健康状態や生活の改善状況を確認(評価)

※2 メタボリックシンドロームと診断された方に動機づけ支援に加え、継続的な支援を行い、3カ月以上経過後に健康状態や生活習慣の改善状況を確認(評価)



面接では生活習慣を改善するための具体的な目標を立て、目的意識を持って持続できるように支援を行っています



Actions 溪仁会円山クリニックの活動トピックス

職員の健康増進プログラムを実施

溪仁会健康保険組合と連携し、同組合の被保険者を対象に、栄養指導と運動指導を行う「ダイエットプログラム」を実施しました(結果はP39参照)。定員は20名で、2019年7月～10月と、同11月～2020年2月の2クールを開催。申し込み開始から間もなく定員に達するほど関心を集めました。

内容は初回指導の後、1カ月後と2カ月後に栄養に関する講話と筋力トレーニングを実施。最終評価とあわせて4回の指導を通し、体重を3%減らすことをめざしました。両クールともに指導後は食事バランスの改善が見られ、参加者からは併設のフィットネス施設を活用した実践的なトレーニング内容が高く評価されました。



院内ラボの設置で検査結果の迅速な説明が可能に

同クリニックでは、これまで受診者から採取した血液などの検体検査を、外部の検査機関に委託してきました。そのため、検査終了から結果説明までの待ち時間が長くなり、結果説明を受けない受診者が多いことが課題になっていました。

人間ドック検診施設機能評価認定を受けた施設として、結果説明実施率の向上は必須事項でもあることから、2020年1月より院内ラボを設置し、内部で検体検査を実施できる体制を整えました。

今まで数時間かかっていた検査結果の報告は30～40分に短縮され、迅速な結果説明が可能になりました。2020年春から試験運用を重ね、10月から本格運用を開始しています。



健診システムの更新でサービス体制を改善

2019年4月より、新たな健診システムを導入し、健診受診者へのサービス向上を図っています。システムの変更と同時に問診回答票と健診結果表のリニューアルを実施。印刷を白黒からカラーに変更し、文字を大きくすることで見やすくしました。

また、検査漏れや検査順序の間違いを防止するため、各検査セクションにバーコードリーダーを設置し、進捗状況を管理できるようにしました。さらに、検査予約枠の管理方法も変更し、検査の待ち時間の短縮を図っています。

ステークホルダーの声
南幌町 保健福祉課
高齢者包括グループ
保健師
宮本 奈都美氏



地域の皆さんがより健康になれるように協力しあって活動していきたい

南幌町では町民向けの介護予防事業の中で、溪仁会円山クリニックの健康運動指導士から軽い運動やトレーニングをご指導いただいています。元は職員健診を溪仁会グループに依頼していた縁で指導士の存在を知り、2002年から高齢者支援の取り組みとして開始しました。

最初のうちは少なかった参加者は地道な広報と口コミによってだんだん増え、昨年度は2会場で、実人数約90名、延べ2,400名を超える町民の参加がありました。その間健康運動指導士の先生は、ただ運動を教えるだけでなく、参加者の要望や意見を吸い上げ、それを私たちにも

フィードバックしてくださったので、より良い内容にすることができたと思います。参加者からも「楽しい!」という声が聞かれ、準備から片付けまで加わってくれる健康意識の高い方も増えました。

現在は町内2カ所での開催ですが、会場までの交通手段がないために参加できていない方もいます。今後は地域に出て、より積極的に町民の健康づくりを進めていかなければいけません。住まいの近くで教室を開催したり、若い年代が参加しやすいリモート開催をしたりと、溪仁会円山クリニックと共に理想の形を見つけていければと思います。

職員と共にずっと。溪仁会健康保険組合 10年間のあゆみ

溪仁会グループは職員の福利厚生を充実させることを目的に、
2009年10月1日に溪仁会健康保険組合を設立し、職員とその家族の健康を守るための取り組みを推進してきました。
2019年には10周年を迎え、未来に向けた新たな取り組みも始まっています。

職員の健康と安心を守る組織として

溪仁会健康保険組合は、2009年の設立時の被保険者数が3,321名、被扶養者を含めた加入者総数は4,903名でした。それが2020年5月の時点で被保険者数4,863名、加入者総数は6,965名と大幅に増え、溪仁会グループの職員とその家族の健康を担う同組合の役割はさらに大きくなっています。

同組合では、加入者への総合健診の補助、がん検診の全額補

設立10周年を機に新たな挑戦を

2019年には、10周年の記念事業として「健康（肩こり・腰痛）体操」を企画。溪仁会円山クリニックの協力で、希望のあった溪仁会グループの7事業所を訪問し、ストレッチやリラクゼーションを目的とした体操を実施しました。また、新たなサービスとして「ダイエットプログラム」（P27参照）や「Pep Up（ペップアップ）」を開始。ペップアップはスマートフォンやパソコンと連動させることで、日々の睡眠時間や歩数等の記録、健康診断結果の確認といった健康増進サービスが受けられるもので、生活習慣病が増加する40～74歳の被保険者を対象に、ウェアラブル活動量計を無料で支給しました。

10周年記念事業として行った「健康（肩こり・腰痛）体操」は、事業所との交流を深める機会にもなりました



溪仁会健康保険組合では、専任の職員が加入者への細やかな対応やサービスの向上に努めています

地域の保健、医療、介護、福祉を支えるには、その担い手である職員が健康でなければなりません。健康保険組合を維持し、加入者の健康を守ることが当グループのサービスの質を担保するという強い使命感を持ち、次の10年に向けて活動を続けていきます。

単一健保の強みを活かし、 加入者の健康を支援

溪仁会健康保険組合
常務理事
藤井 裕康



当組合が10年間にわたり、滞りなく保険給付事業と保健事業を続け、サービスの拡充を図ることができたのは、事業所や職員の皆さんの理解と協力のおかげと感謝しています。社会情勢やニーズに応じた柔軟なサービスを提供できるのは、単一健保ならではのメリットです。また、溪仁会円山クリニックと緊密に連携し、年齢やリスクに応じたきめ細かな健診を実施できることも強みになっています。

職員の皆さんが健康を維持し、地域の保健、医療、介護、福祉を支え続けていくには、何より予防医療が重要になります。今後も予防事業や心身のサポートに取り組み、職員とご家族の健康を守るという使命を果たしていきます。

加入者の皆さんの 健康づくりに役立つ事業を

溪仁会健康保険組合
事務長
谷口 直行



当組合が設立されてから10年がたち、加入者は約1.4倍に増えました。多くの方の健康を担う責任をあらためて感じています。以前から、実践的に健康づくりができる活動をしてほしい、という要望があり、10周年記念事業として事業所での「健康（肩こり・腰痛）体操」を実施しました。また、ダイエットプログラムも好評で、2020年も継続しています。

地道な活動を続けたことで、予防や健康に対する意識が根付いてきたのではないかと思います。これからの目標は、独自のホームページを設け、情報発信や加入者の健康管理ができるようにすること。さらに、ご家族に向けたサービスも強化し、加入者の皆さんの健康づくりに貢献したいと考えています。

環境活動トピックス

溪仁会グループでは、身近なところから環境活動に取り組み、職員の環境意識向上をめざしています。

地域への感謝を込めて、清掃活動に取り組んでいます

溪仁会グループの各施設では、独自に、あるいは地域の方々と協力して、環境美化活動に取り組んでいます。



手稲溪仁会病院

2018年度より品質管理委員会環境活動チームが中心となり、病院周辺の清掃活動を行っています。2019年4月は、清掃月間として3回実施し、各回5～15名の有志が参加しました。



西円山敬樹園・カームヒル西円山

2019年4月17日、円山西町の「町内ごみ拾い」に参加し、施設周辺の清掃活動を行いました。2施設の職員と、グループホーム西円山の丘の職員のほか、カームヒル西円山の入居者さん3名にもご参加いただきました。



定山溪病院

2019年4月22日に行われた町内会のごみ拾いに職員数名が参加し、定山溪温泉街を中心に多くのごみを拾うことができました。今後も清掃活動を通して地域貢献をめざします。



コミュニティホーム白石

毎年「白石区ふるさと会」の環境美化活動に参加し、白石ころーどの清掃活動を行っています。2019年度は5月16日、10月31日に行われ、職員20名前後が落ち葉の掃除などを行いました。



溪仁会円山クリニック

2019年度では3回目となる清掃活動を10月30日に実施。10名の有志が集まり、クリニック周辺のごみ拾いを行いました。この取り組みは環境活動の一環として毎年実施しています。



月寒あさがおの郷

月寒あさがおの郷では、毎年地域の清掃活動を行っています。積雪がない時期に毎月実施し、2019年度は5月より活動を開始しました。今後も継続して、きれいな環境の維持に努めます。

「おたるドリームビーチ清掃活動」を実施しました

溪仁会グループの環境保護活動の一環として毎年行っている「おたるドリームビーチ清掃活動」。2019年度は6月15日に開催され、職員や家族、北海道科学大学の学生、協力会社の方々など180名が参加しました。当日は約1時間かけてごみを拾い、海水浴シーズンへ向けてビーチをきれいに清掃しました。今後も活動を継続し、環境保護に努めます。



社会福祉法人溪仁会が「溪仁会の森植樹会」を開催

2019年9月7日、当別町の「道民の森」にて、DCMホームマックス株式会社と合同で「第8回社会福祉法人溪仁会 溪仁会の森植樹会」を開催しました。職員や家族、ボランティアの学生など98名が参加し、約1,100本のアカエゾマツを植樹しました。この活動は2012年から実施し、延べ2,860本の苗木を植えています。今後も環境保護のため豊かな森づくりをめざします。



社会福祉法人溪仁会

Close Up
プロジェクト
紹介

積極的な情報発信で、福祉への関心と職員の意識を高める

Challenge	より多くの方に福祉施設の機能やサービスを伝える	Action	地域との交流を深める事業やSNSによる広報活動を展開	Next Step	職員の意識啓発やスキルアップも図り地域との関係を強化
-----------	-------------------------	--------	----------------------------	-----------	----------------------------

見学ツアーやSNSで施設の今の姿を発信

高齢者の福祉施設は種類が多く、以前より地域の方からは「何をしているところなのかわかりにくい」という声が聞かれていました。地域との隔たりを解消し、福祉への理解を深めてもらうために、社会福祉法人溪仁会では、福祉施設やそのサービスについて知ってもらう活動を始めています。

2019年に新たに取り組んだのが、介護施設見学ツアーでした。溪仁会グループの病院や在宅サービスを利用されている方とご家族を対象に、グループ内の高齢者施設の見学を通して、それぞれの施設の機能やサービス、環境の違いを体感していただくツアーを企画。当初は定員20名でしたが、想定よりも申し込みが多く、30名に増やして開催しました。ツアーを企画した宮村善英業務管理担当次長は「皆さんからは、勉強になったという感想が多く聞かれました。私たち職員も、福祉施設についてご存知ではない方が多いという実情に気づくことができ、今後はいかにわかりやすく情報を伝えるかという視点を持って仕事に臨みたいと考えています」と振り返ります。

また、YouTubeによる動画の公開や、SNSを活用した情報発信にも取り組んでいます。親しみやすいメディアを通すことで多くの方に福祉を身近に感じてもらい、少しでも関心を持ってもらうために、さまざまな工夫をしています。

地域に開かれた福祉をめざし挑戦を続ける

こうした活動の目的は、福祉への啓発活動によって社会貢献を果たすことと、さらに地域の方とコミュニケーションを深め、ネットワークを築くことにあります。地域包括ケアシステムを担う一員として、地域での連携が求められる中、自分たちの活動を積極的に発信していくことに大きな意義があると宮村次長はいいます。「今後は窓口となる職員、特にソーシャルワーカーの力量が重要になると考えています。今回の見学ツアーは、そのスキルを高める機会でもありました。地域の声に耳を傾け、良い関係を築いていきたいと思っています」

同法人では、情報発信を通して、福祉の魅力を訴求することも

重視しています。職員が喜びを感じて働くことのできる職場づくりを推進することによってサービスの質を高め、利用者さんや職員の生き生きとした姿を社会に向けて発信することで、広く福祉の魅力を伝えたいとしています。

「閉鎖的ともいわれる従来の福祉施設から脱却し、自ら魅力を発信することが大切。そのためのツールとしてSNSも活用しながら、新たな広報活動に挑戦していきたい」と意欲を語る宮村次長。魅力ある福祉の姿を伝えるために、これからも楽しく、わかりやすい情報発信をめざしていきます。



社会福祉法人溪仁会
事業推進部
業務管理 担当次長
宮村 善英



Facebookでは各施設でのイベントや職員研修、法人本部の活動などを紹介



コミュニティホーム八雲では施設紹介にYouTubeを活用しています

介護施設見学ツアーReport

関心の高さに大きな手応え

2019年11月2日に開催した社会福祉法人溪仁会の介護施設見学ツアーは、豊平区・白石区コースと中央区・手稲区コースの2コースに分かれて実施しました。参加者は溪仁会グループの介護老人福祉施設や介護老人保健施設、グループホームなどを見学。各施設の担当者の説明に、熱心に耳を傾けていました。また、意見交換会では施設の特徴や利用条件などについて、多くの質問がありました。参加者からは「施設の違いがわかってよかった」「親の介護をするうえでとても参考になった」という感想も多く、「次は違うコースに参加したい」という意見もありました。

参加者の関心の高さに、担当した職員はやりがいを感じると同時に、自分たちの施設の役割や責任についてあらためて見直す機会になりました。今回の経験をサービスの向上に活かし、今後も地域のニーズに応えていきます。



それぞれの施設の担当者が機能やサービスの違いを詳しく説明しました



中央区・手稲区コースの意見交換会では、社会福祉法人溪仁会の谷内好理事長を交え、参加者と交流を図りました

サービスと経営の質の向上を図り、法人ビジョンの達成を

社会福祉法人溪仁会では2017年に第2期中期経営計画として「ビジョン福祉40」を策定し、事業戦略とサービスの質の向上、ガバナンス体制の強化と経営の質の向上、福祉人財の育成と確保を3つの柱に掲げてきました。さらに単年度ごとの目標を設け、ビジョンの実現に取り組んでいます。

これら3つの柱を踏まえ、昨年度から今年度にかけて「稼働率100%・リスク0・離職0」という経営方針を打ち出しました。突拍子もない目標のように思われるかもしれませんが、大切なのはその数字を達成するためのプロセスです。達成可能な数字を掲げて満足するのではなく、あらゆる知恵や方策を駆使して実現に取り組んでほしいという思いを込め、こうした数字を提示しました。今年度は100%稼働を目標に掲げる

施設が増え、この考え方が理解され、組織に浸透してきたことを感じています。

ここ数年、介護現場では深刻な人手不足が続いています。当法人では、人財の確保だけではなく、いかに地域福祉に貢献でき

る福祉人財を育てるかという視点も重視しており、最重要課題としています。これは「離職0」にもつながるもので、職員が定着し、福祉人財として成長していくには、組織の健康経営が大切だと考えています。今後、医療法人溪仁会とも連携し、「健康経営優良法人※」の認定を受けることをめざしています。

これからの社会福祉法人には、地域にある小さな困りごと、ニッチ（隙間）なことを拾い上げ、支援をする姿勢が必要です。当法人では新たな取り組みの一つとして、2020年8月に「児童デイサービスぱぷりか」を開設しました。今後は高齢者サービスに限らず、ワンストップでさまざまな相談対応や支援ができる体制づくりをめざしていきたいと考えています。

今年は新型コロナウイルス感染症という未曾有の災いが起きる中、社会機能を支えるエッセンシャルワーカーの存在が大きく注目されました。職員の皆さんには福祉の専門職としての誇りと自覚を持ち、地域の福祉を支えるという大切な役割を果たすことを期待しています。当法人が共生社会において地域から必要とされ、存在感を示すこと、それがゴーイングコンサーン（継続組織の前提）につながっていくと確信しています。

※地域の健康課題に即した取り組みや健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している企業や法人を国が顕彰する制度。取り組みを「見える化」することで、従業員の健康管理に戦略的に取り組む組織として社会的な評価を得ることができる



社会福祉法人溪仁会
理事長
谷内 好

Actions **社会福祉法人溪仁会の活動トピックス**

都府県から意欲のある人財を採用し、移住をサポート

社会福祉法人溪仁会は、幅広く福祉人財を採用するために、北海道以外での採用活動も行っています。高瀬雄二さんは東京での介護施設勤務を経て、2019年7月に「きもべつ喜らめきの郷」に入職しました。同法人では高瀬さんのように働く意欲のある人を積極的に採用し、移住や生活面のサポートを行っています。

先輩職員の熱意と移住のサポートが決め手に 誰もが笑顔で働ける環境をめざしたい

東京で生まれ育ち、大学卒業後は都内の介護施設で働いていましたが、20代後半になり、「東京以外の場所で生活してみたい」と考えるようになりました。そのときに思い浮かんだのが、旅行で訪れたことのある北海道でした。6年間働いた介護のスキルを活かし、自然豊かな環境で働きたいと思い、2018年の夏に参加した北海道への移住セミナーで、当施設や社会福祉法人溪仁会法人本部の方たちと出会いました。

その後、熱心に連絡をいただき、同年の秋に当施設を見学しました。東京の施設とは違い、ゆとりがあり自然に囲まれた静かな環境はとても魅力的でした。しかし何より私の心を動かしたのは職員の皆さんの熱意で、こういう方たちのいる法人であれば、やりがいを持って働けると感じました。引っ越しや住まい探しにかかる費用についてもバックアップしてくれるという条件にも背中を押され、2019年7月に喜茂別町に移住し、当施設の職員として働き始めました。

当施設は少人数のユニットケアのため、利用者さん一人ひ

とりと深く関わることができるのが特徴です。当初は東京の施設との違いにとまどったこともありましたが、先輩たちにアドバイスを受けながら環境に慣れていきました。2年目となる今年はユニットリーダーとなり、利用者さんのケアに加え、一緒に働くスタッフのサポートや指導も担当しています。今ではユニット制の良さを活かし、イベントを企画したり、その方に合わせたケアを考えたりする余裕もできました。

首都圏から地方に移住して働こうと思う人はまだ少数です。例えば短期移住体験をして、当法人の施設で働ける制度があれば、もっと多くの人にその魅力を訴求できるのではないのでしょうか。そうすれば、北海道に移り住み、当法人で働きたいと思う人が増えるのではないかと考えています。



きもべつ喜らめきの郷
生活支援課
ユニットリーダー
高瀬 雄二



ゆったりと流れる時間の中で、一人ひとりに合ったケアを提供しています。北海道での生活にもだいぶ慣れ、休日は近郊にドライブに出かけることもあるそうです



「つながる地域フェスタin白石」を開催

2019年9月28日、コミュニティホーム白石が主体となり、地域の方々に介護職への理解を深めてもらうイベント「つながる地域フェスタin白石（白石の介護はおもしろい 動いて食べて笑っちゃおう）」を開催しました。5回目を迎えた本イベントは、白石区体育館（札幌市）を会場に介護や福祉に関する展示や体験などさまざまな催しを実施。約440名の参加者が集まりました。



楽しく認知機能低下予防「脳活塾」

4町村（喜茂別町、ニセコ町、積丹町、島牧村）と連携した健康支援事業の一環として、「脳活塾（認知機能低下予防プログラム）」を開催しました。講師は社会福祉法人溪仁会法人本部の柿沼英樹担当課長が務め、地域住民を対象に、年齢とともに衰える認知機能の維持・向上を目的としたゲームやトレーニングを行いました。また、カームヒル西円山でも同プログラムを開催しました。



職場環境改善などが評価されダブル受賞

月寒あさがおの郷が「キラリと輝く介護の職場づくり表彰」（P36参照）「介護のサッポロスマイル写真コンテスト」で金賞を受賞し、2020年1月20日に表彰式が行われました。介護現場の日常の風景や仕事の魅力を伝える「介護のサッポロスマイル写真コンテスト」では、施設ケア部新井大樹ユニットサブリーダーが職員と利用者さんを撮影した写真「笑顔で握手!!」が受賞しました。



地域の方との交流の場「地域カフェ」を開催

2019年11月23日、西円山ハーティケアの丘は社会福祉法人光の森学園「霖雨の邑」と連携し、「地域カフェ」を開催しました。カフェでの交流を通し、障がい者、子ども、高齢者、地域住民の共生をめざすイベントで、昨年度CSRレポートの座談会で発案されました。各施設の利用者さんが接客を務め、お菓子や飲み物を販売。50名以上の地域の方にご参加いただきました。



第9回職員研究会議実践発表大会で最優秀賞

2019年11月29・30日に全国軽費老人ホーム協議会が開催する発表大会の全国発表が東京で行われ、北海道ブロック代表のカームヒル西円山が最優秀賞を受賞しました。今大会は「多様な住まいと多様な支援の在り方を考える」をテーマに開催。同施設の発表では、軽費老人ホーム固有の生活支援や、利用者と地域をつなぐ取り組みなどが評価されました。



「札幌市ワーク・ライフ・バランスplus企業認証」取得

札幌市は、ワーク・ライフ・バランスと女性の職業生活における活躍の推進に積極的に取り組む企業を「札幌市ワーク・ライフ・バランスplus企業」として認証し、さまざまな支援をしています。社会福祉法人溪仁会は、その企業認証を2019年4月3日に取得しました。





株式会社ソーシャル

Close Up
プロジェクト
紹介

サービス提供責任者研修会を開催

Challenge

制度や介護の知識を鍛え、ヘルパーの質を向上

Action

サービス提供責任者のスキルアップを促す研修会を実施

Next Step

課題抽出と研修を続け、ヘルパー育成にもつなげる

株式会社ソーシャルでは、資格を持ったヘルパーが利用者さんの自宅を訪問し、訪問介護や介護予防サービスを提供しています。サービスの質を高めるためさまざまな研修を実施していますが、職員が介護制度や利用者さんの支援の理解を含めキャリアアップできるよう、サービス提供責任者に向けた研修会も月1回行っています。

2019年度は、モニタリング、訪問介護計画書、アセスメント・緊急加算・返戻についてなど、毎月テーマを変えて全12回を実施し、延

べ101名が参加しました。

ホームヘルパーは担い手が減少している分野であり、今後は人財確保と育成がさらに重要になってきます。今後もサービス提供責任者のスキルアップを続け、ヘルパー育成を担える人財を増やしていきます。また、ICT導入や仕事の効率化による働き方改革も進めていく予定です。



医療法人稲生会

Close Up
プロジェクト
紹介

さらなるつながりをつくる場へ施設をリニューアル

Challenge

小児の在宅医療を提供しながらネットワークもつくる

Action

活動の拠点となる施設をリニューアル

Next Step

時代に合うさまざまな形でネットワークを強化する

医療法人稲生会は、高度な医療的ケアを必要とするお子さんを中心に、さまざまな困難を抱える方をサポートしてきました。2019年4月1日、医療法人稲生会は新たな拠点へ移転リニューアルし、さらに活動の幅を広げました。

移転後は3階建てとなって施設内スペースに余裕ができ、さまざまな場面で利用していただける場となりました。短期入所事業所「どんぐりの森」では、陽光降り注ぐ明るい空間でお子さんたちにのびのび過ごしていただけます。ご家族の方も利用できる待合室では、地域交流や勉強会などを行うことも可能です。また「みらいつくり食堂」*を設け、カフェのような空間で食事をし、ご家族と今後のプランを話し合うことにも利用しています。

施設内には動画制作を行えるスタジオも設けました。今後は動画をはじめさまざまな情報発信も強化し、支えが必要な方を地域、社会で支えるネットワークづくりを進めていきます。

*2020年11月現在、新型コロナウイルス感染症予防対策のため利用を自粛しています。



広く明るい待合室



短期入所事業所「どんぐりの森」



みらいつくり食堂

研究発表を通じて日頃の活動を周知

2020年2月12日、コミュニティホーム岩内にて「第2回岩内コミュニティの丘研究発表会」が開催され、同施設職員や岩内町役場の方など55名の参加がありました。各職種による演題の発表と2件の伝達報告が行われ、職員間での情報共有や、地域の皆さんに日頃の活動を知っていただくきっかけとなり、有意義な時間となりました。



認知症カフェ「ふれあいカフェ」を開催

2020年1月31日、岩内ふれ愛の郷で認知症カフェ「ふれあいカフェ」が初めて開催されました。認知症の方のほか、ご家族や地域の方々、介護・医療に関わる職員など、誰でも参加でき、認知症に関する悩みを気軽に相談できる場として設けられました。地域の方々や岩内町役場の方など、26名に参加いただき、情報共有や交流が行われました。



カンフォータブル・ケアでの介護技術を学ぶ

2019年5月9日、コミュニティホーム美唄にて、「カンフォータブル・ケアで変わる認知症ケア研修会」が開催され、介護や医療に携わる91名が参加しました。医療法人北仁会 旭山病院の看護師長・南敦司氏を講師に迎え、認知症患者が増加していく状況下で役立つ「心地よさをかなえるための介護技術」をめざしたケアを学びました。



夏のイベントで地域と交流

菊水こまちの郷は、近隣の公園の花壇の植え替えなど、町内会活動に積極的に参加しています。2019年8月14日には「こまち盆踊り大会」、同24日には「町内会・菊水こまちの郷合同夏祭り」が開催されました。町内会やボランティアの方々のご協力があり、利用者さんやご家族をはじめ、地域の方々にも楽しんでいただくことができました。



ステークホルダーの声
office YAMADA代表
山田 尚子氏



常に学ぼうという前向きな姿勢に福祉を支える人たちの使命感を感じます

2013年より社会福祉法人溪仁会の研修会で講師を務めています。内容はリーダー層へのコーチングや新入職員のマナー研修、接遇に関する研修会など、人と円滑なコミュニケーションを図るための技術を中心に、実践的なプログラムを提供しています。

研修に参加する方々と接していて感じるのは、誰もが勉強熱心だということ。常により良いサービスをめざして努力されていることが伝わってきます。また、人に対するサービス精神にあふれ、コミュニケーション能力の高い方が多

いと感じています。人の心を思いやり、スキルアップのために学び続けようという姿勢には頭が下がる思いがします。

社会福祉法人溪仁会では、多くの施設が特色あるサービスを展開されています。そこで大切なのは、施設のめざすサービスの在り方を職員間で共有することです。それによってサービスの質が一定になり、利用される方の安心につながります。また、自分に厳しいだけでなく、時にはその努力を認め、自分をほめてあげてください。皆さんがされているのはそれに値する素晴らしい仕事だと思います。

数字で読み解く 溪仁会グループ

溪仁会グループでは、さまざまな取り組みの結果をデータ集計し、分析・検証することで質の向上をめざしています。
今回は職場環境の向上や人材育成に向けた取り組みについての数字を特集します。

誰もがキャリアを活かしキラリと輝ける職場をめざして —— [月寒あさがおの郷]

Challenge	Action	Next Step
職員が育児とキャリアアップを両立できる職場づくり	勤務形態を変更し、ユニットと別の動きをするチームを設ける	より多くの人の多様な働き方に対応できる体制へ

子どもの急な体調変化など、育児中には仕事に影響する状況が多く発生します。月寒あさがおの郷では、育児中の職員がキャリアを活かして輝けるよう、2019年度から業務改善に取り組みました。

同施設はユニットケアのため、職員に急な休みが発生すると同じユニットの他職員の負担が増し、時間外勤務が増えていました。そこで、ママさん職員をユニットとは別に、フロア単位で1名を配置する「日勤」体制に変更しました。日勤は施設全体を見て状況に応じた業務を行い、各ユニットの要請があれば業務のフォローにも対応します。ユニットと日勤の連携が必須のため、日勤ミーティング、ユニットリーダー会議で情報共有を行い、問題点を洗い出し解決へと向けています。

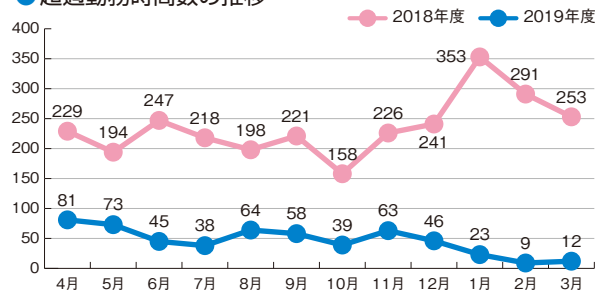
これにより、育児中の職員にやりがいが生まれたほか、施設全体の時間外勤務を大幅に減らすことができました。職員間のコミュニケーションが活性化し、各ユニットの動きが他ユニットにも共有されやすくなる効果もありました。この取り組みが評価され、「キラリと輝く介護の職場づくり表彰」で金賞を受賞しました。



パソコン上に全職員共有のカレンダーを作り、利用者さんの動きと職員の予定を共有しています。フォローが必要な場合は話し合っ確認します

数字を見る

●超過勤務時間数の推移



職員アンケートから寄せられた声

19年7月実施

- 配薬に時間を取れるようになった。
- 日勤、他ユニットが関わることで清掃状況を他者の目で知ることができる。
- 日勤の具体的な動きが分からず、意見交流や伝達がうまくいかない。

20年3月実施

- 排泄のスキンケア方法の情報共有ができるようになった。
- 勤務変更が出た時に、他ユニットの情報がある日勤に相談することでスムーズに変更・フォローができる。
- 日勤連絡の仕組みができたことで、情報共有がしやすくなった。

発言の機会が増え責任感も増し、ステップアップになりました



月寒あさがおの郷施設ケア部生活支援課ケアワーカー 柴田 裕子

現在2人の子育て中で、下の子の出産のため2018年に産休に入り、2019年4月に復帰して日勤チームに入りました。以前は子どもの保育園のお迎えや急な体調変化の時に、周りに負担をかけて申し訳なく思う場面が多くありました。今の勤務体制になってからは、勤務変更が発生した場合は同じ立場の日勤者間で勤務調整をするので、休む時も、「お互い様」という気持ちで頼り合うことができます。

また、特定のユニットにいた時よりも、さまざまなユニットのやり方を知ることで視野が広がりましたが、日誌やカレンダーを駆使して情報共有を密にしています。フリーに動いているからこそ気づけることもあるので、ミーティングや会議での発言の機会が増え、自分自身のステップアップにもつながったと感じます。自分の経験や気づきは、スタッフにどんどん伝えていければと思います。

業務改善発表会を開催しました

[医療法人溪仁会]

Challenge	Action	Next Step
法人全体で働き方改革を進め、各部門で業務改善を行う	業務改善の取り組みを発表し合い、良い事例を共有する	発表された内容をグループ全体で共有し業務改善をさらに進める

医療法人溪仁会では働き方改革を推進するため、業務改善プロジェクトとして業務やそのマニュアルの見直しを進めています。2018年度から法人本部の総務人事部で部門内の業務監査を開始し、改善事例の抽出に着手しました。2019年度は、それを各施設の経営管理部門にも対象を広げ、取り組みの一層の活性化を図るために業務改善の先行事例を発表し、優秀な取り組みを表彰する「業務改善発表会」を2020年3月26日に開催しました。医療法人溪仁会の各施設から選ばれた6演題が発表され、溪仁会グループ業務改善研修の講師、キャリアフォローアカデミー株式会社藤塚優子社長から講評をいただきました。藤塚社長と理事長、常務

理事、各施設の経営管理部長が審査員を務め、2演題が優秀演題に選ばれました。



数字を見る

●2019年度業務改善発表会エントリー数 **119**演題

優秀演題

定山溪病院

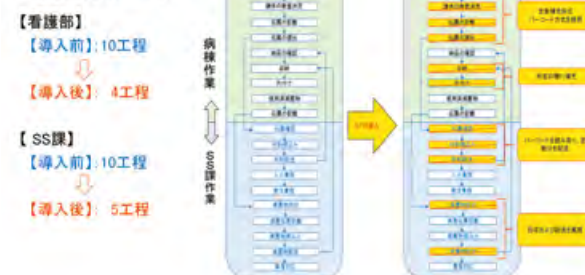
経費削減と担当者の意識改革

～定山溪病院の「物流改革」を目指したSPD導入に向け～

概要

院内物流担当課の人員減、病棟の請求・納品に関わる業務の負担増加から、外部委託であるSPDの導入を進めた。結果、スタッフの業務量減少、余剰在庫の削減により、委託費を含めても経費削減となった。

導入イメージ



溪仁会円山クリニック

予約カードのシステム化

概要

これまで手書きだった予約カード作成を見直し、健診システムと連動した予約カードを印刷するシステムを製作した。労働時間削減、作成者の疲労軽減と、正確な情報での運用につながった。



KMS内部監査と監査員の養成

[溪仁会グループ]

Challenge	Action	Next Step
グループの経営基本方針を現場にまで浸透させる	チェック機能を高めるための職員による内部監査	改善点や優秀な手法を部署・施設間を越えて共有へ

溪仁会グループでは、独自のマネジメントシステム「KMS(溪仁会マネジメントシステム)」を用いて、経営方針や年度目標の達成のプロセスを統一し管理しています。サービスの質を高めるためのチェック機能として毎年内部監査を実施し、その監査を行う職員を研修で育成しています。2019年は6月20・21日に「KMS内部監査員養成基礎研修会」を実施し、35名の参加がありました。

数字を見る

●KMS内部監査員の数(2019年度末現在) **564**名



職業人として、組織人としてレベルアップを図る ―― [溪仁会グループ]

Challenge	Action	Next Step
医療・福祉の人材を経営の質に寄与する組織人としても育成	階層別・年代別・テーマ別に体系化した研修を実施	研修内容の現場でのフォローを強めていく

溪仁会グループでは、本部主催研修会として、勤続年数や役職などによる階層別、年代別、テーマ別に研修を実施しています。保健・医療・介護・福祉の質向上に関わるスキルのみでなく、「組織人」として求められるスキルやマネジメントの知識を習得することにも重点を置いています。2019年度からは役職者対象のマネジメント研修、一般職対象のリーダー研修を新たに設けました。これらは研修時に現場での実行計画を策定し、参加者自身の所属部署で実行して次の研修で

実施の振り返りを行うアクティブラーニング方式を取り入れています。また、自身のキャリアを考える「年代別キャリアデザイン研修会」の内容を一新したほか、小樽商科大学と共同開発した「経営マネジメント力養成研修会」のアドバンスコースの開催を開始しています。

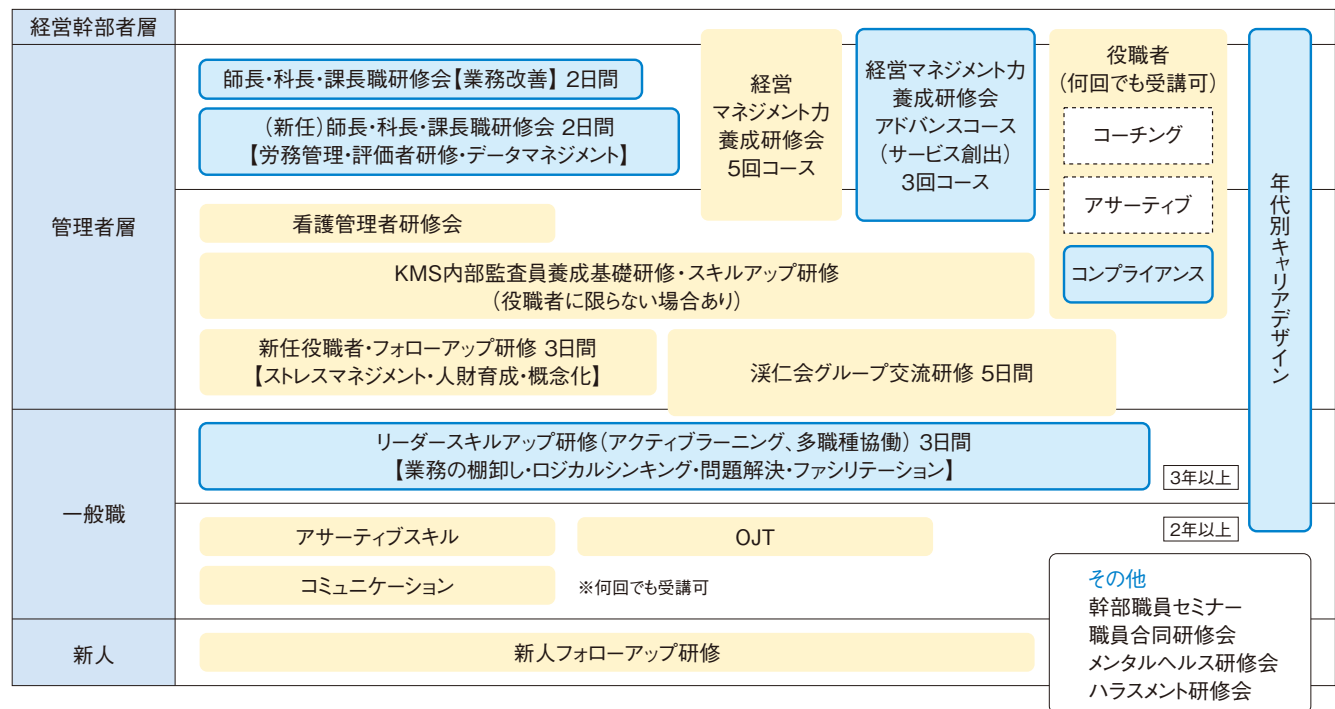
数字を見る

●2019年度研修会プログラム実施数 ……………

47

●2019年度溪仁会グループ職員研修会体系図

□ = 新規研修(または内容リニューアル)



学び合う意欲を高める溪仁会グループ研究発表会を開催 ―― [溪仁会グループ]

Challenge	Action	Next Step
職員一人ひとりの向上心を引き出し研究する力を育てる	グループ職員が一堂に会し研究成果を発表できる場をつくる	共有された研究発表の成果をグループ施設間で活かしていく

溪仁会グループでは、職員がそれぞれの仕事の中で、専門性の向上や業務の質改善などの研究に取り組むことを奨励しています。その成果を発表する機会として、1989年から溪仁会グループ研究発表会の開催を続けています。

2019年は11月16日に札幌コンベンションセンターで開催しました。今回は会場をカテゴリーごとに7つのフロアに分け、参加者は口演やポスターで研究成果を発表しました。普段の仕事の中ではなかなか交流の機会が少ない、施設や職種の垣根を越えての交流や情報交換が行われることで、グループ内のコミュニケーション促進の場となりました。

数字を見る

●第31回溪仁会グループ研究発表会

参加者数

発表演題数

610名 89演題 (口演発表82題、ポスター発表7題)



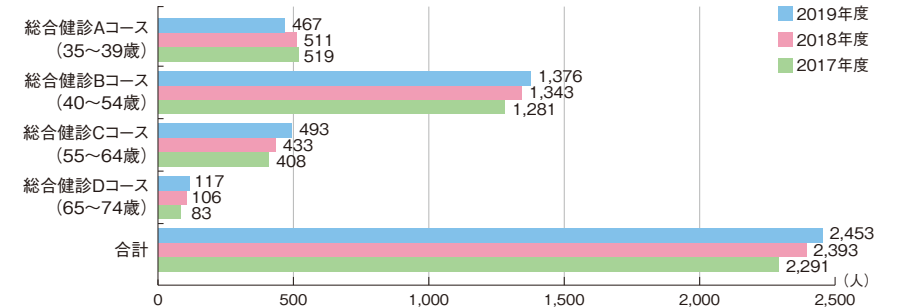
職員の心身の健康を守り安心して働ける職場に ―― [溪仁会健康保険組合]

Challenge	Action	Next Step
職員の健康意識を高め、予防と早期発見・治療につなげる	健康保険組合により健診補助、啓発活動を行う	受診者・参加者をさらに増やし活動を広げる

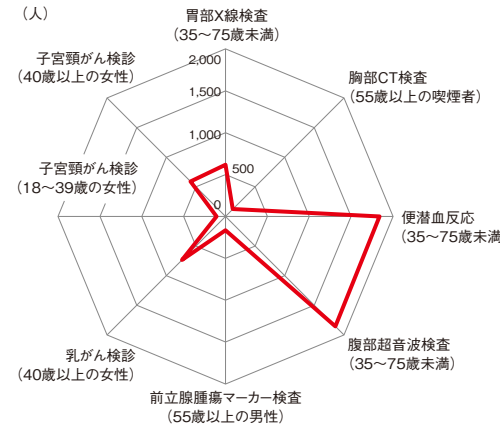
溪仁会健康保険組合では、毎年度職員(被保険者)に総合健診(年齢階層別・生活習慣病予防健診)、各種がん検診の受診費用を補助し、職員の健康維持と病気の早期発見をめざしています。また、職員だけでなくそのご家族(被扶養者)の健診にも費用補助を行っています。

また、健診結果にメタボリックシンドロームのリスクが見られた場合は、特定保健指導などのサポートを行っています。

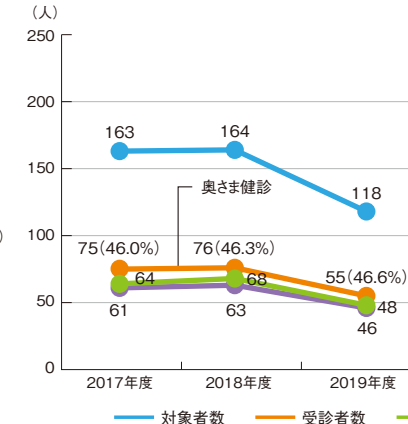
●被保険者(35歳～75歳未満)の健保補助を利用した年度別健診実績



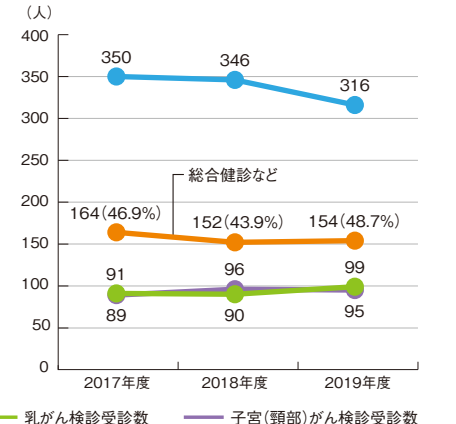
●被保険者(35歳～75歳未満)が健保補助を利用したがん検診などの2019年度受診実績



●被扶養者(39歳以下の女性配偶者)の奥さま健診などの年度別受診実績

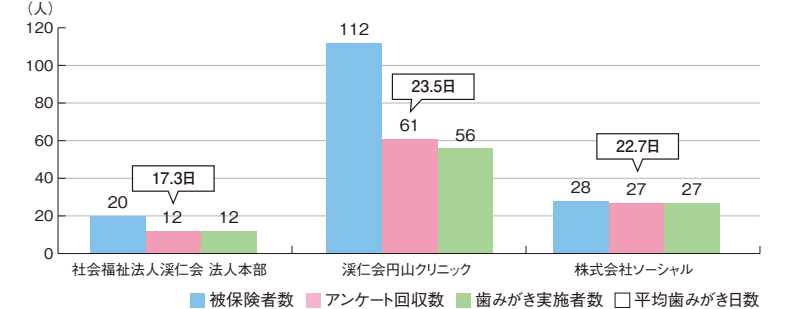
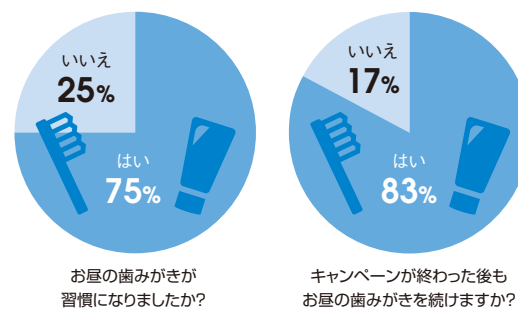


●被扶養者・任意継続加入者(40歳から75歳未満)の生活習慣病予防健診(特定健診)などの年度別受診実績

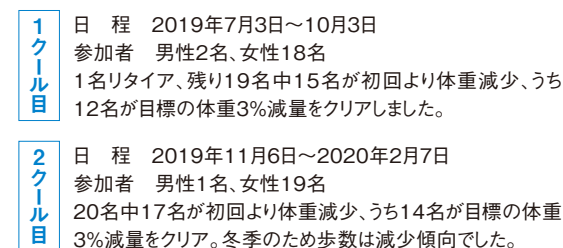


●お昼の歯みがきキャンペーン

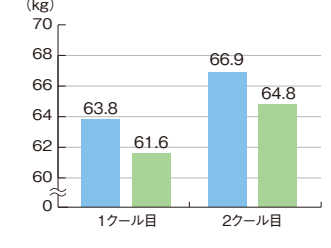
データヘルズ計画(保健事業)の一環で、歯周病予防の啓発活動を行っています。前年度と比較し、歯科医療費の増加幅の大きい3事業所の被保険者全員に歯みがきセットを配布、30日間食後の歯みがきを実行してもらいました。歯みがきは「自覚症状の改善」が実感できるため、歯周病予防には日ごろの口腔ケアが重要であり、早期治療・健康意識向上につながっています。



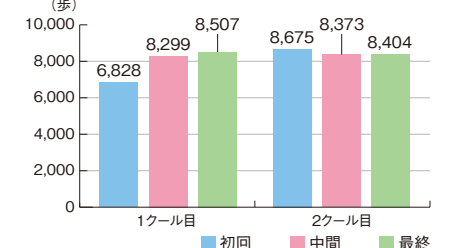
●健康増進(ダイエット)プログラム(P27参照)



●結果/体重平均



●結果/歩数平均



グループの基本データ編

●総事業所数 **84** | ●総敷地面積 **344.98**(千㎡)

●グループ職員総数 **5,107**名

職業別人数	医師:382名、看護職員:1,666名、介護職員:1,062名、セラピスト:557名、 その他医療資格者:346名、事務職員その他:1,094名
男女別職員数*	医療法人:男性1,049名/女性2,728名(管理職:男性170名/女性102名) 社会福祉法人:男性402名/女性834名(管理職:男性71名/女性35名)

※医療法人・社会福祉法人のみ

●ワーク・ライフ・バランス

産休・育休取得者数 院内保育所利用園児数(延べ)

129名 (医療法人:106名
社会福祉法人:23名) **33,330**名

※手稲溪仁会病院・札幌西円山病院・
定山溪病院の合計

保健・医療のデータ編

●総ベッド数

1,806床

※2020年3月現在

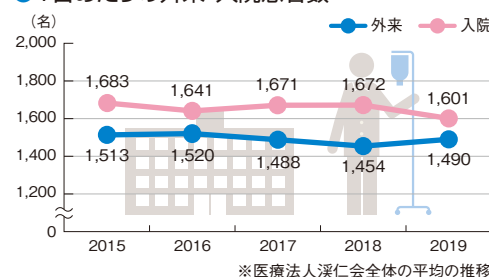
手稲溪仁会病院	670床	札幌西円山病院 介護医療院	60床
手稲家庭医療クリニック	19床	定山溪病院	295床
札幌溪仁会リハビリテーション病院	155床	溪仁会円山クリニック	4床
札幌西円山病院	603床		

●ドクターヘリ出動件数

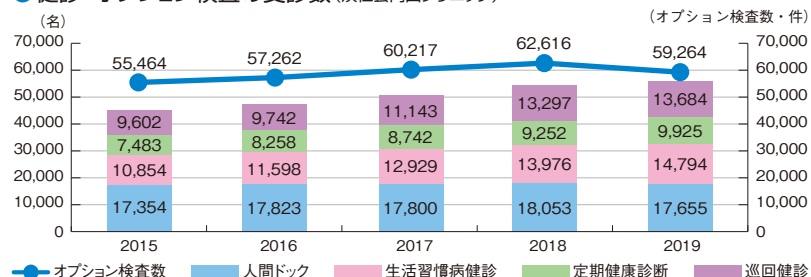
404件

出動要請件数**721**件

●1日あたりの外来・入院患者数

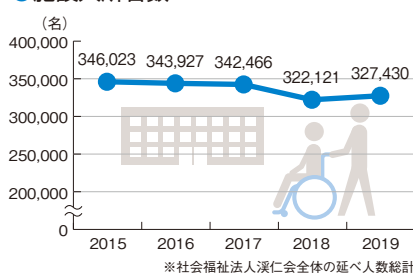


●健診・オプション検査の受診数(溪仁会円山クリニック)

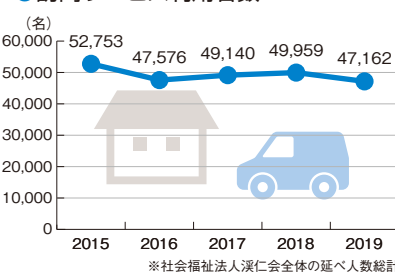


介護・福祉のデータ編

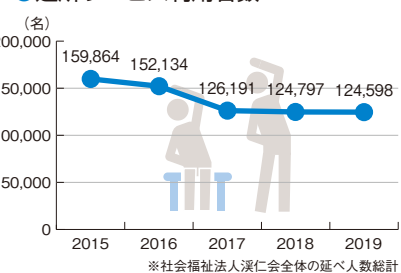
●施設入所者数



●訪問サービス利用者数



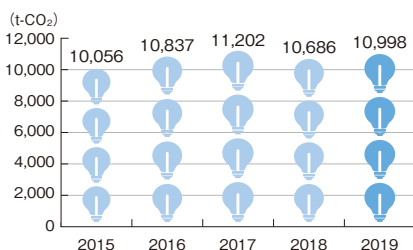
●通所サービス利用者数



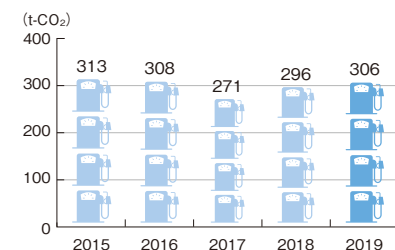
環境のデータ

※環境負荷のデータはすべて医療法人のみ

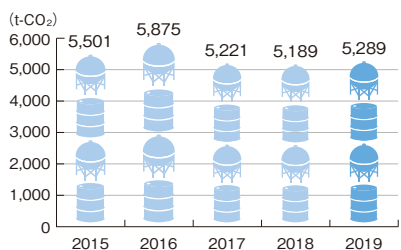
●電気使用量



●車両燃料(ハイオク・レギュラーガソリン・軽油)



●建物設備維持燃料(都市ガス・灯油・A重油・LPG)



各事業所の数字

手稲溪仁会病院

治療とケア

●外来延べ患者数	190,749名(1日平均788名)
●入院延べ患者数	214,663名(1日平均588名)
●平均在院日数	9.6日
●病床稼働率(退院患者を含む延べ患者数計算)	87.5%
●チーム医療	
クリニカルパス施行数	9,142件
クリニカルパス種類	236種類(2020年3月31日現在)
栄養食事指導件数(非加算指導含)	外来3,355件/年、入院8,517件/年
NST(栄養サポートチーム)介入延べ患者数	3,795件/年
服薬指導件数	17,581件/年
リハビリテーション実施単位数(入院・外来合計)	594,871
●救急医療	
救急患者数	20,850名(内救急車5,790名、ヘリ搬送患者数183名)

手稲溪仁会クリニック

治療とケア

●外来延べ患者数	106,973名(1日平均442名)
●職員数	78名

手稲家庭医療クリニック

治療とケア

●外来延べ患者数	24,842名
●入院延べ患者数	5,167名
●訪問診療(往診含)延べ患者数	4,918名
●看取り患者数	病棟128名/在宅67名
●予防接種実施人数	3,354名
●栄養指導実施数	1,249件
●訪問看護延べ利用者数(はまなす訪問看護ステーション)	13,226名
●職員数	84名

札幌西円山病院

リハビリと療養

●外来延べ患者数	21,397名(1日平均88.4名)
年齢別外来患者割合	50歳未満4.8%、50歳～60歳未満4.8%、60歳～70歳未満6.5%、70歳～80歳未満13.1%、80歳～90歳未満27.8%、90歳以上43.0%
●入院延べ患者数	212,362名(1日平均580.2名)
●入院患者平均年齢	80.8歳
●患者分類別状況(入院)	医療療養病床 医療区分1・1.3%/医療区分2・57.6%/医療区分3・41.1%
●地域別患者数	札幌市内547名(中央区175名、西区88名、その他284名)、石狩13名、後志24名、空知20名、胆振・日高8名、その他道内32名、道外0名
●リハビリテーション実施単位数(入院)	538,041(医療保険525,014/介護保険13,027)
●職員数	857名

札幌西円山病院 介護医療院

介護

●平均要介護度	4.43(入所)
●1日当たり実績 入所	59.7名/日(定員60名)
●職員数	38名

溪仁会円山クリニック

保健

●健診受診者数	人間ドック17,655名、生活習慣病健診14,794名、定期健康診断9,925名、巡回健診13,684名
●オプション検査数内訳	婦人科検査(乳がん、子宮がん、卵巣がん)18,572名、CT検査(頭部、胸部、腹部)2,785名、その他(胃内視鏡、腫瘍マーカー、骨粗しょう症検査)19,517名
●契約団体数	保険者380団体、事業所数約3,000件
●職員数	141名

●診療関連	
年間手術件数	9,133件
難易度別手術割合 高難度(E)0.6%、中難度(C-D)94.7%、低難度(A-B)4.7%	
年間消化器内視鏡検査数	13,019件
●周産期医療	
年間分娩件数	507件
NICU稼働率(退院患者を含む延べ患者数計算)	66.3%
●地域医療連携(連携医療機関数)	644機関(病院130、クリニック514)
連携登録医師数	726名(病院157名、クリニック569名)
患者紹介率/逆紹介率	78.3%/68.9%
●職員数	1,791名

札幌溪仁会リハビリテーション病院

リハビリとケア

●外来延べ患者数	9,779名(1日平均40.1名)
●入院延べ患者数	51,728名(1日平均141.3名)
●入院患者平均年齢	70.0歳
年齢別患者割合	50歳以下13.5%、51歳～60歳12.2%、61歳～70歳13.0%、71歳～80歳24.8%、81歳～90歳28.3%、91歳以上8.2%
●平均在院日数	67.7日
●在宅復帰率	82.3%
●リハビリテーション実施単位数	外来16,048/入院394,349
●訪問リハビリテーション実施単位数	35,419(医療保険20,145/介護保険15,274)
●実績指数(点)	47.0
●職員数	344名

定山溪病院

リハビリと療養

●外来延べ患者数	8,118名
●入院延べ患者数	101,197名
●入院患者平均年齢	73.3歳
年齢別患者割合	40歳未満3.3%、40歳～50歳未満4.4%、50歳～60歳未満10.2%、60歳～70歳未満14.9%、70歳～80歳未満30.5%、80歳～90歳未満24.0%、90歳以上12.7%
●地域別患者数	札幌市内218名(南区108名)、石狩12名、空知7名、小樽10名、岩内4名、黒松内1名、共和1名、仁木1名、ニセコ1名、喜茂別2名、倶知安4名、真狩1名、上川3名、留萌1名、胆振3名、オホーツク2名、宗谷1名、日高1名、道外2名
●リハビリテーション実施単位数(入院)	141,915
●訪問リハビリテーション実施単位数	28,513
●デイケア延べ利用者数	3,940名
●介護予防啓発普及事業(介護予防センター定山溪)	
開催回数	124回
延べ参加者数	1,632名
●職員数	312名

泊村イ茅沼診療所

地域医療

●外来延べ患者数	6,739名
●保健予防活動	
予防接種	1,105名
生活習慣病健診	1名
特定健診	12名
肺がん検診	3名
各種ドック検診(脳、腹部、心臓)	2名
風しん抗体検査	11名
●主治医意見書作成	49名
●職員数	8名

喜茂別町立クリニック

地域医療

●延べ患者数	8,322名
●保健予防活動	2,104名
予防接種	1,513名
事業所健診	205名
バースデイ健診	60名

西円山敬樹園

介護

●平均要介護度	4.0(入所)
●1日当たり実績	
入所	117.6名／日(定員123名)
グループホーム西円山の丘	25.5名／日(定員27名)
短期入所生活介護	7.8名／日(定員14名)
通所介護	24.4名／日(定員30名)
訪問介護	29.0回／日
●居宅介護支援	延べ119件
●介護予防センター延べ相談件数	円山50件、曙・幌西48件
●研修参加・実施状況	
外部研修	参加98回
内部研修	開催全体17回、各部署42回
●職員数	156名

月寒あさがおの郷

介護

●平均要介護度	3.8(入所)
●1日当たり実績	
入所	75.3名／日(定員80名)
短期入所生活介護	5.0名／日(定員8名)
通所介護	34.7名／日(定員45名)
●研修参加・実施状況	
外部研修	法人本部・溪仁会グループ主催研修含め道・市老施協・デイ協、法人役員・施設長研修、医療安全講習会、主治医研修・管理者向け講習など
内部研修	褥瘡予防基礎研修、接遇研修傾聴セミナー
●職員数	94名

きもべつ喜らめきの郷

介護

●平均要介護度	3.6(入所)
●1日当たり実績	
入所	66.2名／日(定員80名)
訪問介護	2.3回／日
●研修参加・実施状況	
外部研修	参加43回、延べ51名参加、認知症介護実践研修、介護職員実務者研修、技能実習責任者講習、後志老施協研修、溪仁会グループ及び本部主催研修など
内部研修	開催15回、延べ316名参加、リスクマネジメント、感染対策、交通安全、事故防止など
●職員数	68名

岩内ふれ愛の郷

介護

●平均要介護度	3.9(入所)
●1日当たり実績	
入所	50.1名／日(定員50名)
短期入所生活介護	9.1名／日(定員10名)
●研修参加・実施状況	
外部研修	参加者延べ28名、地域医療連携セミナー、認知症介護者研修、北海道高齢者虐待防止推進研修会、感染症研修など(溪仁会グループ・キャリア支援課主催研修含む)
内部研修	開催回数延べ19回、おなかの調子を整える、結核(感染予防)について、フィードバック(虐待予防)研修、リスクマネジメント研修など
●職員数	50名

学校内科健診	133名
学校心臓健診	26名
保育所健診	83名
乳幼児健診	84名
●職員数	9名

手稲つむぎの杜

介護

●平均要介護度	4.3(入所)
●1日当たり実績	
入所	79.3名／日(定員80名)
短期入所生活介護	8.1名／日(定員10名)
通所介護	52.3名／日(定員65名)
認知症対応型通所介護	9.2名／日(定員12名)
●居宅介護支援	延べ1,549件
●介護予防センター延べ相談件数	62件
●障がい者相談支援事業	5,966件
●研修参加・実施状況	
外部研修	参加95回(溪仁会グループ・キャリア支援課主催研修含む)、延べ203名参加、認知症介護実践者・実践リーダー研修、老人福祉施設研究大会など
内部研修	開催24回、延べ228名参加、感染対策研修、虐待防止研修、事故防止研修、褥瘡予防研修、看取りケア研修などを実施
●職員数	139名

菊水こまちの郷

介護

●平均要介護度	4.3(入所)
●1日当たり実績	
入所	28.0名／日(定員29名)
小規模多機能型居宅介護	27.3名／日(登録定員29名)
小規模多機能ホームるびなす	11.0名／日(定員18名)
●研修参加・実施状況	
外部研修	参加45回、延べ46名参加、介護初任者研修、実務者、小規模多機能サービス等計画作成担当者研修など
内部研修	開催13回(うち外部講師2回依頼)、延べ313名参加、接遇、リスクマネジメント、認知症の理解、緊急時対応、感染対策など
●職員数	57名

るすつ銀河の杜

介護

●平均要介護度	3.5(入所)
●1日当たり実績	
入所	27.9名／日(定員29名)
通所介護	5.5名／日(定員10名)
●居宅介護支援	延べ535件
●研修参加・実施状況	
外部研修	参加20回、延べ20名参加、内容はきもべつ喜らめきの郷と同様
内部研修	きもべつ喜らめきの郷と合同
●職員数	35名

コミュニティホーム岩内

社会復帰・生活支援

●平均要介護度	2.9(入所)
●1日当たり実績	
入所	98.8名／日(定員100名)
通所リハビリテーション	41.2名／日(定員50名)
訪問看護	20.3名／日
●居宅介護支援	延べ371件
●地域包括支援センター延べ相談件数	161件
●研修参加・実施状況	
外部研修	参加者延べ100名、中堅管理者研修、接遇研修、終末期リハ研修、認知症初期集中支援研修、その他
内部研修	開催回数延べ17回、緊急時対応研修、ケアプラン研修、AED講習会研修、虐待研修、事故防止研修、その他
●職員数	150名

コミュニティホーム白石

社会復帰・生活支援

●平均要介護度	2.9(入所・コミュニティホーム白石のみ)
●1日当たり実績	
入所	94.3名／日(定員100名)、白石の郷…17.5名／日(定員18名)
短期入所生活介護	16.3名／日(定員19名)
通所リハビリテーション	40.3名／日(定員55名)
通所介護	(白石の郷)41.4名／日
訪問介護	17.6回／日
訪問リハビリテーション	14.8回／日
●居宅介護支援	延べ2,361件
●地域包括支援センター延べ相談件数	1,621件
●介護予防センター延べ相談件数	白石中央46件
●研修参加・実施状況	
外部研修	認知症実践者及びリーダー研修4名、北海道抑制廃止研究会1名、高齢者虐待防止研修会2名参加他(合計延べ238名が参加)
内部研修	防災研修会58名、安全運転講習会42名、認知症サポーター養成講座13名参加他
●職員数	213名

コミュニティホーム美唄

社会復帰・生活支援

●平均要介護度	2.7(入所)
●1日当たり実績	
入所	78.1名／日(定員80名)
通所リハビリテーション	52.2名／日(定員65名)
●研修参加・実施状況	
内外合わせて36回、延べ45名参加。法人本部主催研修会、老健協主催研修会、道介護福祉士研修会など	
●職員数	96名

美唄市東地区生活支援センター すまいる

生活支援・通所介護

●平均要介護度	1.8(通所介護)
●1日当たり実績	
通所介護	19.8名／日
訪問介護	48.3名／日
●居宅介護支援	延べ1,985件
●福祉入浴	2,098名
●高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業	3,967件
●研修参加・実施状況	
集合研修延べ11名参加、内部研修延べ320名参加、訪問介護事業所内研修月1回、通所介護・居宅介護事業所内研修会2カ月に1回	
●職員数	49名

青葉ハーティケアセンター

生活支援・通所介護

●平均要介護度	1.8(通所介護)
●1日当たり実績	
通所介護	30.1名／日(定員50名)
訪問看護	23.1名／日
小規模多機能型居宅介護	26.1名／日(定員29名)
●居宅介護支援	延べ1,692件
●研修参加・実施状況	
介護支援専門員専門研修Ⅰ・Ⅱ、実地指導と法令遵守～各加算・基準への理解	
管理者研修、他多数実施	
●職員数	47名

株式会社ソーシャル

在宅支援・生活支援

●訪問介護利用者数	4,837名(月平均403名)
延べ利用回数	37,379回(月平均3,115回)
●札幌市訪問介護相当型サービス利用者数	3,603名(月平均301名)
●職員数	104名(うちパート84名)

コミュニティホーム八雲

社会復帰・生活支援

●平均要介護度	3.1(入所)
●1日当たり実績	
入所	88.5名／日(定員90名)
通所リハビリテーション	31.6名／日(定員55名)
訪問リハビリテーション	2.8名／日
訪問介護	9.0回／日
●居宅介護支援	延べ1,162件
●研修参加・実施状況	
外部研修(法人内)	合計18回、延べ61名参加、中堅管理職講座、接遇担当実践研修、アサーティブスキル研修など
外部研修(法人外)	合計8回、延べ30名参加、終末期ケア研修、認知症介護実践研修、介護従事者サービスマナー研修など
内部研修	合計7回、延べ255名参加、接遇研修、感染対策研修、身体拘束研修など
●職員数	104名

カームヒル西円山

社会復帰・生活支援

●平均要介護度	1.0(入所)
●1日当たり実績	
入所	98.8名／日(うち特定入居者42.8名／日、定員100名)
●研修参加・実施状況	
49回、延べ136名参加、外部は老人福祉施設協議会など、内部は高齢者虐待防止研修など	
●職員数	21名

おおしまハーティケアセンター

生活支援・通所介護

●平均要介護度	2.4(通所介護・短期入所生活介護)
●1日当たり実績	
短期入所	9.3名／日(定員9名)
通所介護	19.3名／日(定員25名)
訪問介護	7.9名／日
●居宅介護支援	延べ1,150件／月
●気仙沼市大島地域包括支援センター延べ相談件数	671件
●地域交流	
ミニデイサービス6地区延べ136名参加、大島公民館祭り、大島地区敬老会、大島地区福祉大会、小中学校交流会参加など	
●職員数	40名

円山ハーティケアセンター

生活支援・通所介護

●平均要介護度	1.9(通所介護)
●1日当たり実績	
通所介護	66.5名／日(定員80名)
●居宅介護支援	延べ1,906件
●研修参加・実施状況	
外部は摂食嚥下リハビリテーション研修、リスクマネジメントセミナー、生活リハビリと義肢装具活用術研修などに参加、内部は管理者向け評価者研修会、接遇担当実践研修、食事介助勉強会などを実施	
●職員数	43名

医療法人稲生会

身体障がい者支援

●延べ患者数	427名／月(訪問診療3,958件／年、外来439件／年、歯科686件／年)
●地域別患者数	
札幌市	178名
その他	22名
●訪問看護	406件／月
●訪問介護	58名／月
●医療型短期入所	136件／月
●職員数	74名

溪仁会グループとしてのブランド力を強化し 唯一無二の価値の創出をめざす

溪仁会グループ最高責任者
 医療法人溪仁会 理事長

田中 繁道

一体感を高め「実現すべきすがた」へ

超高齢社会を迎えた日本において、保健・医療・介護・福祉の在り方は大きく変わろうとしています。65歳以上人口が総人口の30%に達するとされる2025年問題への対策として、政府は社会保障と税の一体改革を推し進めてきました。溪仁会グループは、この変革の時代を乗り越えるため、5ヶ年の中期経営計画である「ビジョン溪仁会2020」を策定し、自分たちの「あるべきすがた」の実現をめざしています。2019年度は、その「あるべきすがた」を「実現しているすがた」にすべく、各病院、施設、事業所がそれぞれの目標を定め、事業を展開しました。

同ビジョンでは重点活動項目として「地域のニーズ、社会のニーズと事業サービスの一体感」を挙げています。これは、時代や地域のニーズを的確に捉えたサービスを提供し、各病院、施設、事業所の機能を十分に発揮することで、地域や社会との連携＝一体感を生みだそうというものです。2019年度はそれぞれが機能の強化やサービスの質の向上に取り組むとともに、KPI（重要業績評価指標）に掲げた数値目標の達成を図りました。目標を明確にし、努力や改善を重ねたことで、「あるべきすがた」の実現に向けて着実に前進することができたのではないかと考えています。

地域や社会との一体感を醸成するには、グループ内のシームレスな連携が重要になります。既に、病院間での情報共有や、医療部門と福祉部門の連携会議などを行っています。今後はさらに組織同士が有機的に連携できる体制づくりを進め、グループ内の一体感を高めたいと考えています。

働き方改革を進め、生きがいのある職場に

ここ数年、社会全体の課題となっているのが、働き方改革の推進です。これは保健・医療・介護・福祉のサービスを担うグループも例外ではなく、長時間労働の是正を図り、多様な働き方ができる職場環境の整備に取り組んでいます。

2019年にはRPA（Robotic Process Automation）というシステムを導入し、事務的な業務の効率化と省力化を図っています。これにより人手で行ってきた作業が自動化され、人的な負担が大きく軽減できるものと期待しています。また、各組織の事例を報告する「業務改善事例発表会」を開催し、実践的な取り組みを共有できるようにしました。こうした活動によってこれまでの業務を見直し、効率化と生産性の向上を図っていく考えです。

医療法人では、2020年度からタスクシフト／シェアの取り組みを開始しました。これは、医師の資格がなくても実施可能な業務を看護師やコメディカルスタッフに移管したり、他の医師らと共同で行えるようにすることで、医師の負担と労働時間を減らすものです。法改正が必要な部分もありますが、今後はこうした動きが加速すると考えています。

当法人は、地域の生命や健康を支えるという使命を担っています。これからもその使命を果たしていくためには、働く職員が心身ともに健やかでなければなりません。今後訪れる生産年齢人口の減少という事態に備えるべく、多くの職員が能力を活かしながら生き生きと働き続けられる環境を築き、生産性の向上につなげていく考えです。その一環として「健康経営優良法人」の認可取得を視野に改善を進めています。

健康保険組合を維持することの責任と意義

2019年に溪仁会健康保険組合は設立10周年を迎えました。拠出金の負担増など、経営的には厳しい面もありますが、独自の健康保険組合を持ち、職員とその家族の健康増進や疾病予防に取り組んできた意義は大きいと考えています。特に、近年は健康保険組合と溪仁会円山クリニックが連携して職員健診を行い、その情報を一元管理することで、組織の健康づくりに活用しています。こうした当グループのネットワークを活かした活動ができるのは、独自の健康保険組合の強みであり、10年間の取り組みによって、職員の健康意識の向上にも寄与することができたのではないかと思います。

健康保険組合の存在は、健康経営の実現にも直結する大切なものです。これからも被保険者の方々のニーズを捉えた活動を続け、健全な労働環境づくりに役立ててまいります。

独自の価値を創出し選ばれる存在をめざす

2020年度は「ビジョン溪仁会2020」の集大成の年であり、各組織はこの5年間の取り組みを評価する作業に入っています。同時に、新たに見えてきた課題や「めざすべきすがた」を踏まえ、次期のビジョンの検討にも取り掛かりました。次の中期経営計画では、ボトムアップ形式で現場の声を取り入れ、各組織が自ら考え行動できるビジョンを策定する予定です。

これまで私は、提供する医療や福祉のサービスの質が高ければ、おのずと患者さんや利用者さんに選んでいただけるものと考えていました。しかし、それは自己満足であり、社会から信頼されるには、自分たちの考えや取り組みをより丁寧に、わかりやすく伝えていく必要があるのだと気づきました。今後は保健・医療・介護・福祉の複合体である溪仁会グループとしてのブランドを確立し、その優位性を広く発信することで「選ばれる存在」となることを目標にしています。

当グループには多くの病院や施設がありますが、まだそのメリットを活かしきれていないと感じています。例えば、それぞれの病院・施設単体ではなく、グループ全体で患者さんや利用者

さんをケアするという考え方ができれば、よりスムーズに質の高いサービスが提供できるはずです。それが当グループならではの価値であり、地域包括ケアシステムの構築につながる取り組みでもあります。一つのチームとしてグループ全体のベクトルを合わせ、これからも社会に求められる保健・医療・介護・福祉のすがたを追求し続けたいと考えています。



第三者意見

報告の信頼性を高め、グループの活動を見直し質の向上へつなげるため、地域経済や組織運営に明るく、CSR分野に詳しい有識者に本レポートへのご意見をいただきました。いただいたご意見は、活動の改善や次回のCSRレポート編集へ活かしてまいります。

国立大学法人小樽商科大学
学長
穴沢 眞 (あなざわ まこと)

プロフィール

北海道大学経済学部、同大学院経済学研究科博士後期課程修了
小樽商科大学講師、同助教授、同教授を経て現職
アジア経営学会理事、北海道経済学会理事



企業の社会的責任が強く求められる時代となりました。特に医療機関はその業務内容ゆえにより高い使命感と倫理観が求められます。溪仁会グループのCSRレポートからは医療機関の在り方を常に前向きに意識し、社会的使命を実現するために、日々それぞれの担当者が自分の置かれた立場に注意を払い、改善を続ける姿勢が読み取れます。

また、このCSRレポートからは溪仁会グループが医療機関として、地域と共に歩む姿とめざす方向性が分かりやすく示されているといえます。溪仁会グループの社会的使命「『ずーっと。』人と社会を支える」という言葉にそれは集約されているといえます。この大きなテーマのもと、それらをより具体的に示す4つの事業理念「安心感と満足の提供」、「プロフェッショナル・マインドの追求」、「信頼の確立」、「変革の精神」が提示され、さらにそれらがグループの中期ビジョンや溪仁会グループ行動基準に落とし込まれる形となっており、ステークホルダーに対しても非常に分かりやすい内容となっています。

今回は巻頭企画2「誰もが住み慣れた場所でその人らしい生活を続けていくために」の中で超高齢化社会を見据えた多様なニーズの掘り起こしと、そのニーズへの対応が分かりやすく述べられています。今後ますます地域社会との連携が重要となる中、一人ひとりのライフス

テージにおけるニーズの変化を的確に把握し、行動する姿勢に強い共感を持ちました。

Actions 2019に示された各機関の取り組みも具体的であり、情報発信を通じて各機関、各自の日々の活動を見直し、その中でプロフェッショナルとしてどのように行動すべきかを明示的に述べています。それらは最終的に企業理念の中の「安心感と満足の提供」と「信頼の確立」に役立っていると思います。ステークホルダーの意見や健康保険組合の情報などは今後の経営改善にも役に立つものであり、グループ全体をより良いものにし、ひいては顧客へのサービスの一層の向上に役立つものといえます。環境活動などは小さな行動の積み重ねが重要であり、地道な活動は地域を思う気持ちとして高く評価されるでしょう。

最後に、本CSRレポートは前年度の活動を中心に記載されていることは理解できますが、今年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大という未曾有の危機に直面し、医療機関もその対応に追われ、医療のひっ迫などが懸念されています。このような状況に対して溪仁会グループとしてどのような対応を行ったかという視点もCSRレポートに書かれていれば、関係者の皆さんもその実態を把握できたと思います。

ISO26000対比表

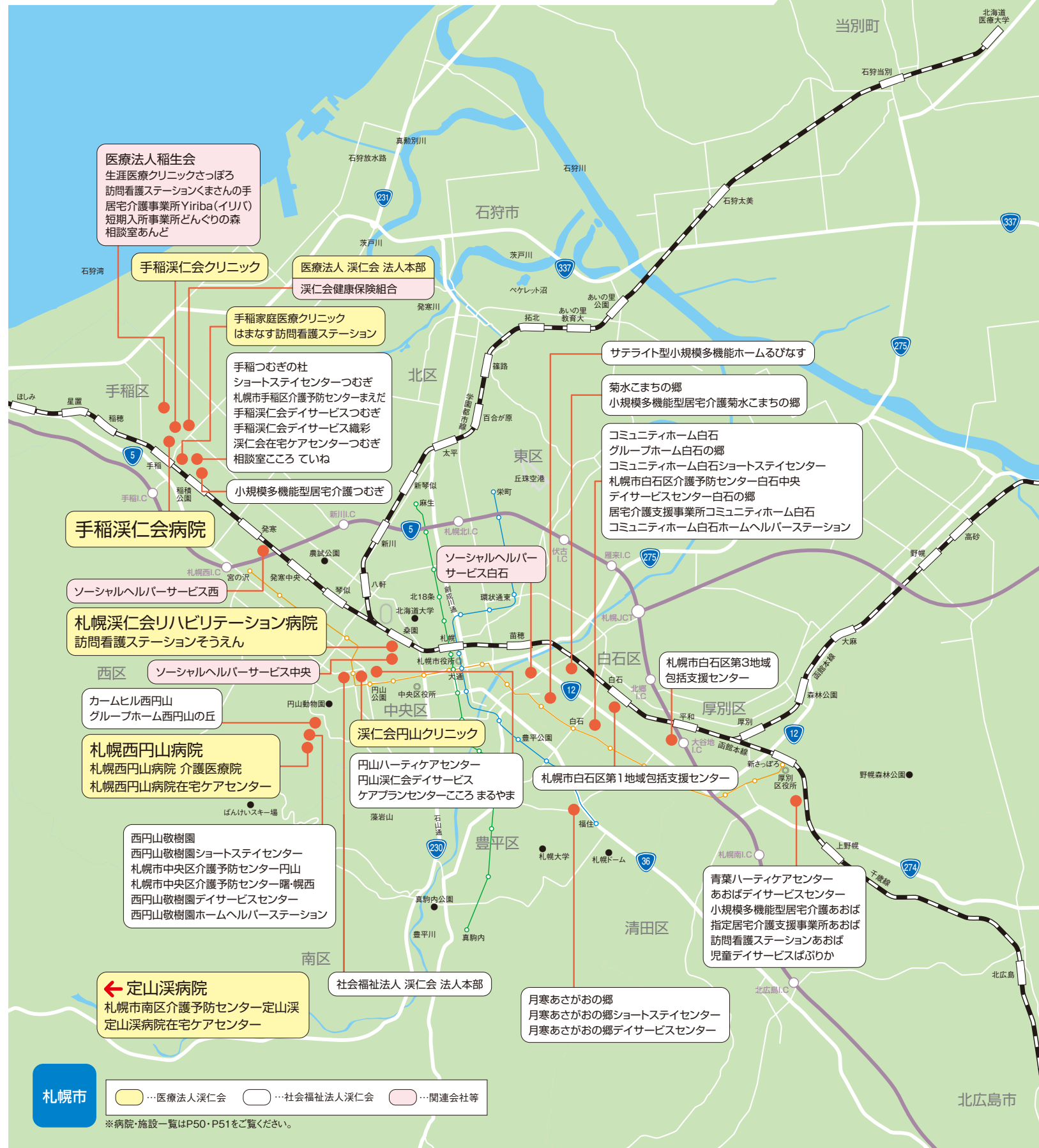
溪仁会グループでは、社会的責任の国際規格であるISO26000を手引きとして、より確実にCSR経営を実行することをめざしています。CSRレポート2020に掲載した取り組みを、7つの中核主題に分類すると以下の通りになります。

中核主題	課題	溪仁会グループ 行動基準項目	取り組み内容
組織統治	組織統治	すべて	溪仁会グループの社会的使命(P04) 溪仁会グループの事業理念(P05) KMS内部監査と監査員の養成(P37) 溪仁会グループとしてのブランド力を強化し唯一無二の価値の創出をめざす(P44)
人権	課題1: デューディリジェンス 課題2: 人権に関する危機的状況 課題3: 加担の回避 課題4: 苦情解決 課題5: 差別及び社会的弱者 課題6: 市民的及び政治的権利 課題7: 経済的、社会的及び文化的権利 課題8: 労働における基本的原則及び権利	③人権尊重	「札幌市ワーク・ライフ・バランスplus企業認証」取得(P33) 誰もがキャリアを活かしキラリと輝ける職場をめざして(P36)
労働慣行	課題1: 雇用及び雇用関係 課題2: 労働条件及び社会的保護 課題3: 社会対話 課題4: 労働における安全衛生 課題5: 職場における人材育成及び訓練	⑥教育研修 ①職場環境	大地震に備えた防災訓練を実施(P16) 介護職のキャリアアップに向けた取り組み(P21) 職員の健康増進プログラムを実施(P27) COLUMN② 職員と共にずーっと。溪仁会健康保険組合10年間のあゆみ(P28) 都府県から意欲のある人材を採用し、移住をサポート(P32) 第9回職員研究会議実践発表大会で最優秀賞(P33) 職場環境改善などが評価されダブル受賞(P33) 研究発表を通じて日頃の活動を周知(P34) Close Upプロジェクト紹介 サービス提供責任者研修会を開催(P35) 業務改善発表会を開催しました(P37) 職業人として、組織人としてレベルアップを図る(P38) 学び合う意欲を高める溪仁会グループ研究発表会を開催(P38) 職員の心身の健康を守り安心して働ける職場に(P39)
環境	課題1: 汚染の予防 課題2: 持続可能な資源の利用 課題3: 気候変動の緩和及び気候変動への適応 課題4: 環境保護、生物多様性、及び自然生息地の回復	⑩環境保護	地域への感謝を込めて、清掃活動に取り組んでいます(P29) 「おたるドリームビーチ清掃活動」を実施しました(P29) 社会福祉法人溪仁会が「溪仁会の森植樹会」を開催(P29)
事業慣行 公正な	課題1: 汚職防止 課題2: 責任ある政治的関与 課題3: 公正な競争 課題4: バリューチェーンにおける社会的責任の推進 課題5: 財産権の尊重	④順法精神	病院機能評価3rdG: Ver. 2.0認定(P25)
消費者課題	課題1: 公正なマーケティング、事実に基づく、偏りのない情報、及び公正な契約慣行 課題2: 消費者の安全衛生の保護 課題3: 持続可能な消費 課題4: 消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決 課題5: 消費者データ保護及びプライバシー 課題6: 必要不可欠なサービスへのアクセス 課題7: 教育及び意識向上	①顧客満足 ②品質管理 ⑤技術変革 ⑦チームワーク ⑧情報公開 ⑫個人情報保護	巻頭企画2 溪仁会グループが描く「あるべきすがた」(P08) Human Story(P14、15、22) 構造的疾患(SHD)へ体の負担の少ない治療を実施(P16) 食道疾患センターの取り組み(P16) 産婦人科外来がリニューアルオープン(P17) 重篤な小児患者の転院搬送チーム始動(P17) 栄養部オリジナルレシピが賞を受賞(P18) 看護・介護の質を院内研修で高める(P23) 「人生の最終段階を支える医療」発刊(P23) Close Upプロジェクト紹介 回復期リハビリテーションに特化した先進的な医療の実現(P24) 回復期リハビリテーション病床の増床(P25) 自主練習の場としてリハビリ室を開放(P25) 院内ラボの設置で検査結果の迅速な説明が可能に(P27) 健診システムの更新でサービス体制を改善(P27) カンフォータブル・ケアでの介護技術を学ぶ(P34) Close Upプロジェクト紹介 さらなるつながりをつくる場へ施設をリニューアル(P35)
コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	課題1: コミュニティへの参画 課題2: 教育及び文化 課題3: 雇用創出及び技能開発 課題4: 技術の開発及び技術へのアクセス 課題5: 富及び所得の創出 課題6: 健康 課題7: 社会的投資	⑨地域重視	巻頭企画1 医療物資等ご支援への御礼(P06) 学校がん教育への取り組み(P17) 職員親子と院内見学「こども探検隊」を開催(P18) 「手稲健康体操」で市民の健康づくり(P18) ボランティア「青い鳥」20周年記念誌を発行(P18) COLUMN① 第69回日本病院学会開催報告(P19) Close Upプロジェクト紹介 地域の健康づくりを支援する「にしまるリハビリ健診」(P20) 「特別養護老人ホームふじの」との連携(P23) 地域の小学生に歯の健康の大切さを伝える(P23) 初めての病院祭「浜リハ祭」を開催(P25) Close Upプロジェクト紹介 迅速な保健指導で健康づくりや生活改善をサポート(P26) Close Upプロジェクト紹介 積極的な情報発信で、福祉への関心と職員の意識を高める(P30) 「つながる地域フェスタin白石」を開催(P33) 地域の方との交流の場「地域カフェ」を開催(P33) 楽しく認知機能低下予防「脳活塾」(P33) 認知症カフェ「ふれあいカフェ」を開催(P34) 夏のイベントで地域と交流(P34)

地域とともに、
保健・医療・
介護・福祉を
見つめて

溪仁会グループマップ

溪仁会グループは、札幌市を中心に道央・道南・道外（気仙沼市）に事業所を展開しています。
質の高い保健・医療・介護・福祉の提供を通して、地域の皆さんに安心と満足を提供することをめざしています。



溪 仁 会 グ ル ー プ 一 覧

治療とケア	最新の医療技術と機器を備え総合医療を提供しています。救急指定医療機関として、24時間・365日あらゆる疾患・外傷の患者さんを受け入れています。 高度急性期・専門医療 手稲溪仁会病院 札幌市手稲区前田1条12丁目1-40 ☎011-681-8111 手稲溪仁会クリニック 札幌市手稲区前田1条12丁目2-15 ☎011-685-3888 手稲家庭医療クリニック 札幌市手稲区前田2条10丁目1-10 ☎011-685-3920
リハビリと療養	看護・介護・リハビリテーションを中心とした医療サービスを提供しています。 回復期医療 札幌溪仁会リハビリテーション病院 札幌市中央区北10条西17丁目36-13 ☎011-640-7012 回復期・慢性期医療 札幌西円山病院 札幌市中央区円山西町4丁目7-25 ☎011-642-4121 地域包括・慢性期医療 定山溪病院 札幌市南区定山溪温泉西3丁目71 ☎011-598-3323
保 健	健康のチェックと病気の早期発見、健康管理、予防に関するサービスを提供しています。 人間ドック・健康診断施設 溪仁会円山クリニック 札幌市中央区大通西26丁目3-16 ☎011-611-7766

介 護	●介護医療院 住まいと生活を医療が支える居宅系施設です。 札幌西円山病院 介護医療院 札幌市中央区円山西町4丁目7-25 ☎011-642-4121 ●介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム) 原則65歳以上の方を対象に介護サービス計画に基づき、食事・入浴・排せつなどの日常生活の介護や機能訓練、健康管理が受けられます。 西円山敬樹園 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-631-1021 岩内ふれ愛の郷 岩内郡岩内町字野東69-4 ☎0135-62-3131 月寒あさがおの郷 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35 ☎011-858-3333 きもべつ喜らめきの郷 虻田郡喜茂別町字伏見272-1 ☎0136-33-2711 手稲つむぎの杜 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 ☎011-685-3726 ●地域密着型介護老人福祉施設 菊水こまちの郷 札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64 ☎011-811-8110 るすつ銀河の杜 虻田郡留寿都村字留寿都186-95 ☎0136-46-2811
------------	---

社会復帰生活支援	●介護老人保健施設 病状の安定期にあり、入院治療をする必要のない方に保健・医療・介護・福祉の幅広いサービスを提供する、介護保険適用の施設です。 コミュニティホーム白石 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-5321 コミュニティホーム八雲 二海郡八雲町栄町13-1 ☎0137-65-2000 コミュニティホーム美唄 美唄市東5条南7丁目5-1 ☎0126-66-2001 コミュニティホーム岩内 岩内郡岩内町字野東69-26 ☎0135-62-3800 ●軽費老人ホーム(ケアハウス) 食事の提供、入浴の準備、緊急時の対応、健康管理および相談助言を基本サービスとして自立の維持ができる施設です。 カームヒル西円山 札幌市中央区円山西町4丁目3-21 ☎011-640-5500 ●認知症対応型共同生活介護(グループホーム) 認知症の方が、小規模な生活の場において食事の支度・掃除・洗濯などを共同で行い、家庭的な雰囲気の中で穏やかな生活を過ごせるよう支えます。 グループホーム 白石の郷 札幌市白石区本郷通3丁目南1-16 ☎011-864-5861 グループホーム 西円山の丘 札幌市中央区円山西町4丁目3-21 ☎011-640-2200 ●短期入所生活介護(ショートステイ) 事情により介護ができないうきに短期間入所していただき、ご家族に代わって食事・入浴等日常生活のお世話をいたします。 西円山敬樹園ショートステイセンター 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-631-1021 コミュニティホーム白石ショートステイセンター 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-5321 おおしまショートステイセンター 宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-26-2272 月寒あさがおの郷ショートステイセンター 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35 ☎011-858-3333 岩内ふれ愛の郷ショートステイセンター 岩内郡岩内町字野東69-4 ☎0135-62-3131 ショートステイセンターつむぎ 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 ☎011-685-3726
-----------------	--

介護予防在宅支援	●地域包括支援センター 高齢者の誰もが、住み慣れた地域でその人らしい尊厳ある生活を継続できるよう支援しています。 札幌市白石区 第1地域包括支援センター 札幌市白石区本通4丁目北6-1 五光ビル3F ☎011-864-4614 岩内町地域包括支援センター 岩内郡岩内町字野東69-26 ☎0135-61-4567 札幌市白石区 第3地域包括支援センター 札幌市白石区本通17丁目南5-12 清友ビル1F ☎011-860-1611 気仙沼市大島地域包括支援センター 宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-25-8570 ●介護予防センター 高齢になっても、住み慣れた地域で、その人らしい自立した生活が継続できるように介護予防事業を行っています。 札幌市中央区 介護予防センター円山 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-633-6056 札幌市中央区 介護予防センター曙・幌西 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-633-6055 札幌市白石区 介護予防センター白石中央 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-5535 札幌市南区 介護予防センター定山溪 札幌市南区定山溪温泉西3丁目71 ☎011-598-3311 札幌市手稲区 介護予防センターまえだ 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 ☎011-685-3141
-----------------	---

●通所介護(デイサービス) 要支援1・2、要介護1～5と認定された40歳以上の方を対象に、食事や入浴、機能訓練や趣味活動などのサービスを提供します。 あおばデイサービスセンター 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 ☎011-893-5000 西円山敬樹園デイサービスセンター 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-640-5522 デイサービスセンターおおしま 宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-26-2272	円山溪仁会デイサービス 札幌市中央区北1条西19丁目1-2 ☎011-632-5500 デイサービスセンター白石の郷 札幌市白石区本郷通3丁目南1-16 ☎011-864-3100 月寒あさがおの郷デイサービスセンター 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35 ☎011-858-3333	手稲溪仁会デイサービスつむぎ 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 ☎011-685-2568 デイサービスセンターすまいる 美唄市東4条南5丁目1-4 ☎0126-66-2525 るすつ銀河の杜デイサービスセンター 虻田郡留寿都村留寿都186-18 ☎0136-46-2811
--	---	--

●小規模多機能型居宅介護 小規模多機能型居宅介護菊水こまちの郷 札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64 ☎011-811-8110 サテライト型小規模多機能ホームるびなす 札幌市白石区東札幌5条3丁目2-32-103 ☎011-595-8461	小規模多機能型居宅介護あおば 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 ☎011-893-5000 小規模多機能型居宅介護つむぎ 札幌市手稲区前田3条9丁目2-7 ☎011-686-0300	●認知症対応型通所介護(デイサービス) 手稲溪仁会デイサービス織彩(しきさい) 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 ☎011-685-3328
--	--	--

●指定居宅介護支援事業所 介護支援専門員(ケアマネジャー)が介護保険サービス利用の申請手続きや、ケアプランの作成など介護保険に関するさまざまな相談に応じています。 溪仁会在宅ケアセンターつむぎ 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 ☎011-685-2322 居宅介護支援事業所コミュニティホーム白石 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-2252 居宅介護支援事業所やくも 二海郡八雲町栄町13-1 ☎0137-65-2121 ケアプランセンターこころ まるやま 札幌市中央区北1条西19丁目1-2 ☎011-640-6622	札幌西円山病院在宅ケアセンター 札幌市中央区円山西町4丁目7-25 ☎011-642-5000 指定居宅介護支援事業所あおば 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 ☎011-893-8761 おおしまハーティケアセンター 宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-26-2272 ケアプランセンターこころ ようてい 虻田郡留寿都村留寿都186-18 ☎0136-46-2811	定山溪病院在宅ケアセンター 札幌市南区定山溪温泉西3丁目71 ☎011-598-5500 居宅介護支援事業所すまいる 美唄市東4条南5丁目1-4 ☎0126-66-2525 ケアプランセンターさつき 岩内郡岩内町字野東69-26 ☎0135-67-7801
---	--	--

●札幌市障がい者相談支援事業所・札幌市障がい者住宅入居等支援事業所 障がいがあっても、住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、さまざまな相談に応じています。 相談室こころ ていね 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 ☎011-685-2861 相談室あんど 札幌市手稲区前田4条14丁目3-10 ☎011-676-3612
--

●訪問看護ステーション 看護師がご自宅に訪問し、主治医の指示に基づき、医療処置・医療機器を必要とされる方の看護を行っています。 はまなす訪問看護ステーション 札幌市手稲区前田2条10丁目1-10 ☎011-684-0118 訪問看護ステーションあおば 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 ☎011-893-5500 訪問看護ステーション岩内 岩内郡岩内町字野東69-26 ☎0135-62-5030 訪問看護ステーションそうえん 札幌市中央区北10条西17丁目1-4 ☎011-688-6125	●訪問介護(ホームヘルパーステーション) ご家族で介護を必要とされる方が、快適な生活を過ごせるようご家庭に訪問し、日常生活をサポートします。 西円山敬樹園ホームヘルパーステーション 札幌市中央区円山西町4丁目3-21 ☎011-644-6110 ホームヘルパーステーションおおしま 宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-26-2272 ソーシャルヘルパーサービス中央 札幌市中央区北8条西18丁目1-17 ☎011-633-1771	コミュニティホーム白石ホームヘルパーステーション 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-2008 コミュニティホーム八雲ホームヘルパーステーション 二海郡八雲町栄町13-1 ☎0137-65-2122 ソーシャルヘルパーサービス白石 札幌市白石区菊水8条2丁目2-6 ☎011-817-7270	ホームヘルパーステーションすまいる 美唄市東4条南5丁目1-4 ☎0126-66-2525 ケアセンターこころ ようてい 虻田郡喜茂別町字伏見272-1 ☎0136-33-2112 ソーシャルヘルパーサービス西 札幌市西区発寒8条10丁目4-20 ☎011-669-3530
---	---	---	---

●通所(児童デイサービス) 0歳児から高校生までの、児童発達支援・放課後等デイサービス・居宅訪問型児童発達支援サービスを行います。 児童デイサービスぱぷりか 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 ☎011-893-5006
--

●医療法人稲生会 身体障がいを抱えた方の在宅療養を包括的に支援します。 ■生涯医療クリニックさつぱろ ☎011-685-2799 ■訪問看護ステーションくまさんの手 ☎011-685-2791 ■居宅介護事業所Yiriba ^{イリバ} ☎011-685-2799 ■短期入所事業所どんぐりの森 ☎011-685-2799

地域医療支援	公立診療所の指定管理者として地域の医療を支えます。 泊村立茅沼診療所 古宇郡泊村大字茅沼村711-3 ☎0135-75-3651 喜茂別町立クリニック 虻田郡喜茂別町字喜茂別13-3 ☎0136-33-2225
---------------	--

溪仁会グループ	医療法人溪仁会 法人本部 〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目2-30 溪仁会ビル3F／☎ 011-699-7500(代表) 社会福祉法人溪仁会 法人本部 〒064-0823 札幌市中央区北3条西28丁目2-1 サンビル5F／☎ 011-640-6767
----------------	---



「ずーっと。」

人と社会を支える

私たち溪仁会グループは、
社会的責任(CSR)経営を推進します。
高い志と卓越した保健・医療・介護・福祉サービスにより、
「一人ひとりの生涯にわたる安心」と
「地域社会の継続的な安心」を支えます。

溪仁会グループ

〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目2番30号 溪仁会ビル3F
TEL 011-699-7500 FAX 011-699-7501

[溪仁会グループホームページ](#)

溪仁会グループ

検索

<http://www.keijinkai.com>

